

吉田町
男女共同参画に関する住民意識調査

令和6年9月
吉 田 町

目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果.....	2
1	回答者属性.....	2
2	男女平等に対する意識について.....	5
3	男女共同参画社会について.....	19
4	性の多様性について.....	21
5	女性の社会進出について.....	23
6	男性の家事・育児などへの参加について.....	28
7	ワーク・ライフ・バランスについて.....	30
8	あらゆる暴力の根絶と困難な問題を抱える女性への支援について.....	32
9	地域活動について.....	38
10	防災・災害復興対策について.....	40
III	調査票.....	50

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第5次吉田町男女共同参画プラン」の策定に向け、今後の施策展開に反映させるための基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

2 調査対象

吉田町在住の18歳以上の男女の中から1,000人を無作為抽出

3 調査期間

令和6年7月8日～令和6年7月21日

4 調査方法

郵送配付・郵送回収及びインターネット回答

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
1,000 通	306 通	30.6%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

Ⅱ 調査結果

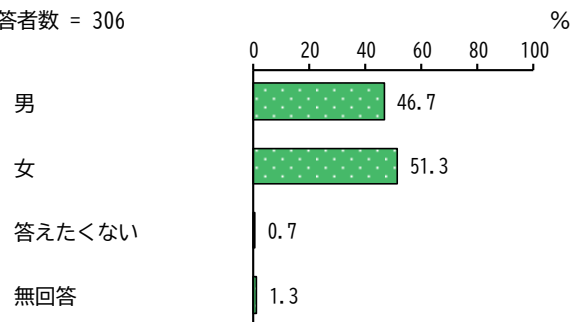
1 回答者属性

問1 あなたの性別（性自認）を教えてください。

【性自認】自分の性別をどのように認識しているかを示す概念で「心の性」ともいいます。

「男」の割合が46.7%、「女」の割合が51.3%
となっています。

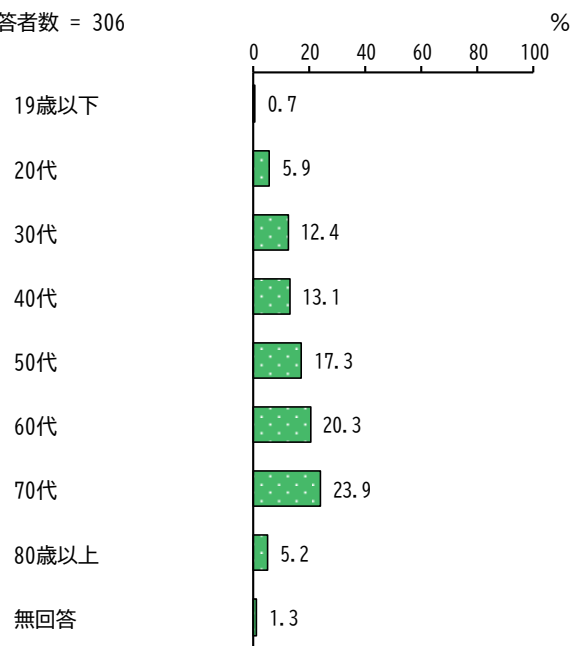
回答者数 = 306



問2 あなたの令和6年7月1日現在の年齢を教えてください。

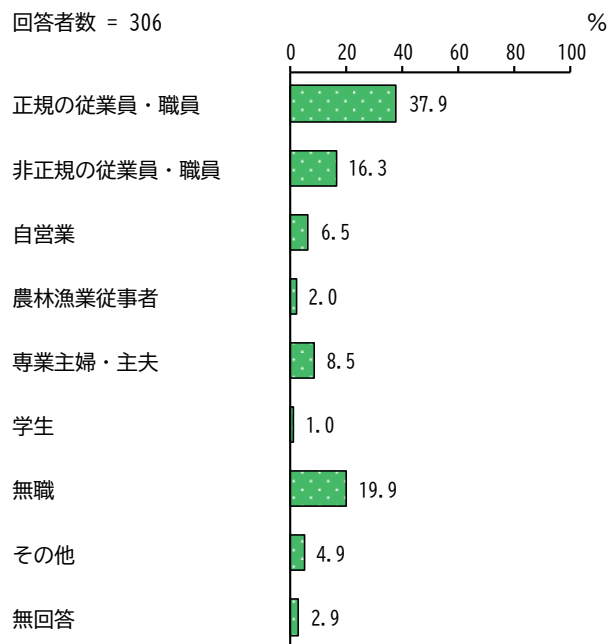
「70代」の割合が23.9%と最も高く、次いで
「60代」の割合が20.3%、「50代」の割合が17.3%
となっています。

回答者数 = 306



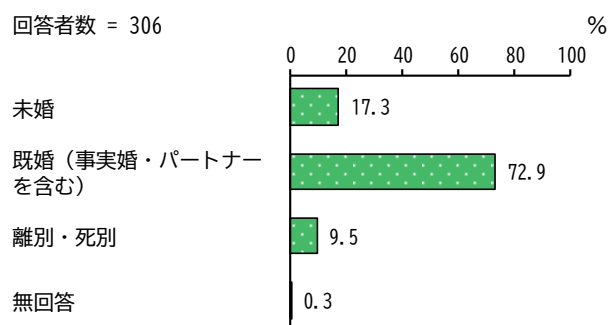
問3 あなたの職業について教えてください。

「正規の従業員・職員」の割合が37.9%と最も高く、次いで「無職」の割合が19.9%、「非正規の従業員・職員」の割合が16.3%となっています。



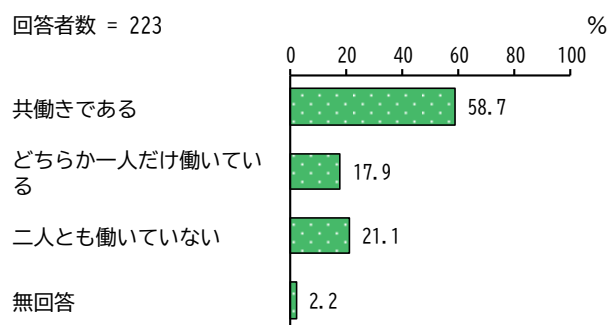
問4 あなたは現在結婚（事実婚・パートナーを含む）していますか。

「既婚（事実婚・パートナーを含む）」の割合が72.9%と最も高く、次いで「未婚」の割合が17.3%となっています。



問5 問4で「2 既婚（事実婚・パートナーを含む）」と回答した方にお伺いします。共働きですか。

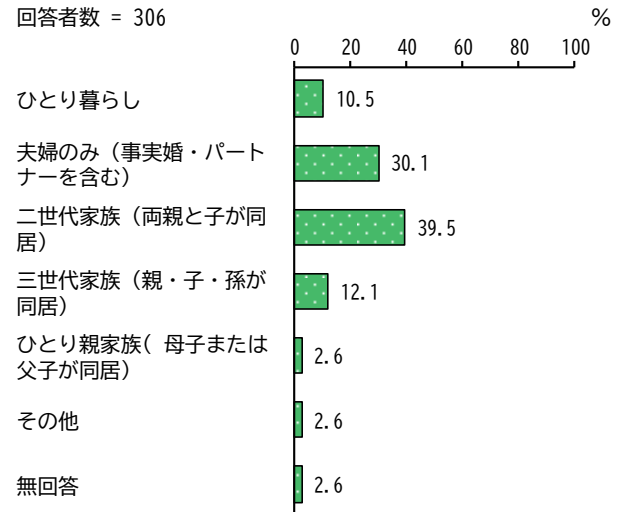
「共働きである」の割合が58.7%と最も高く、次いで「二人とも働いていない」の割合が21.1%、「どちらか一人だけ働いている」の割合が17.9%となっています。



問6 あなたの世帯構成を教えてください。

「二世世代家族（両親と子が同居）」の割合が39.5%と最も高く、次いで「夫婦のみ（事実婚・パートナーを含む）」の割合が30.1%、「三世世代家族（親・子・孫が同居）」の割合が12.1%となっています。

回答者数 = 306



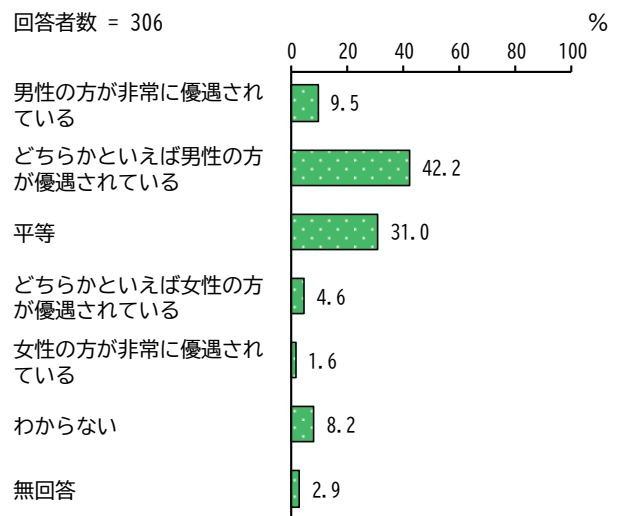
2 男女平等に対する意識について

問7 あなたは、次の分野で男女が平等であると思いますか。（それぞれ○は1つ）

① 家庭生活

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が42.2%と最も高く、次いで「平等」の割合が31.0%となっています。

回答者数 = 306



【性別】

性別にみると、男性で「平等」の割合が高くなっています。

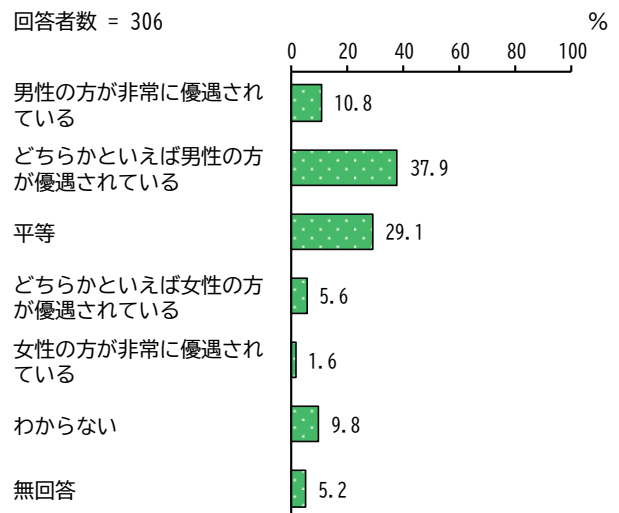
単位：%

区分	回答者数(件)	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全 体	306	9.5	42.2	31.0	4.6	1.6	8.2	2.9
男性	143	7.0	33.6	39.9	7.0	2.8	8.4	1.4
女性	157	12.1	51.0	23.6	2.5	0.6	8.3	1.9

② 職場

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が37.9%と最も高く、次いで「平等」の割合が29.1%、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が10.8%となっています。

回答者数 = 306



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

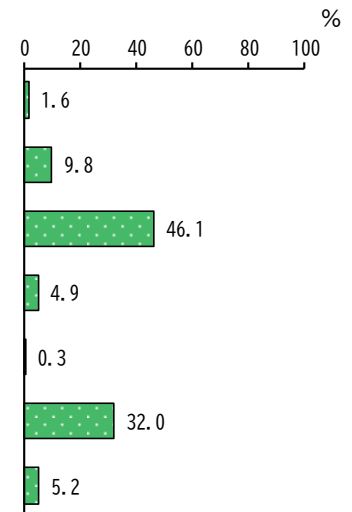
区分	回答者数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平 等	どちらかといえ ば女性の方が優遇 されている	女性の方が非常 に優遇されている	わ か ら な い	無 回 答
全 体	306	10.8	37.9	29.1	5.6	1.6	9.8	5.2
男性	143	9.1	39.9	29.4	6.3	3.5	8.4	3.5
女性	157	12.7	36.9	29.3	5.1	—	11.5	4.5

③ 学校教育の場

「平等」の割合が 46.1%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 32.0%となっています。

回答者数 = 306

男性の方が非常に優遇されている
 どちらかといえば男性の方が優遇されている
 平等
 どちらかといえば女性の方が優遇されている
 女性の方が非常に優遇されている
 わからない
 無回答



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

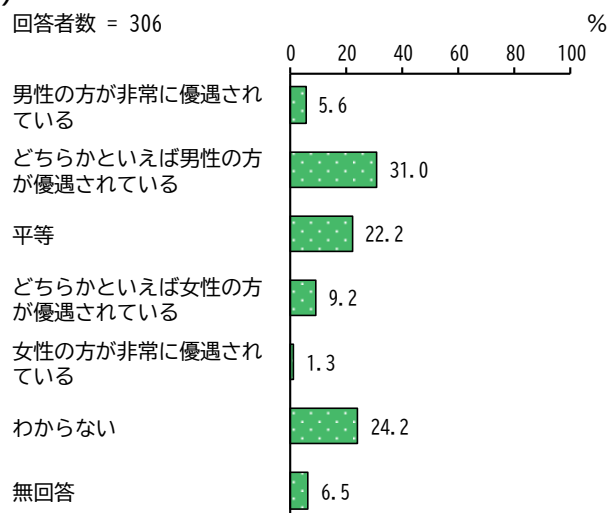
単位：%

区分	回答者数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえ ば男性の方が優 遇されている	平 等	どちらかといえ ば女性の方が優 遇されている	女性の方が非常 に優遇されている	わからない	無 回 答
全 体	306	1.6	9.8	46.1	4.9	0.3	32.0	5.2
男性	143	1.4	9.8	49.7	7.0	—	30.1	2.1
女性	157	1.9	10.2	44.6	3.2	0.6	33.8	5.7

④ 地域活動の場（自治会・自主防災会・PTAなど）

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が31.0%と最も高く、次いで「わからない」の割合が24.2%、「平等」の割合が22.2%となっています。

回答者数 = 306



【性別】

性別にみると、女性で「わからない」の割合が高くなっています。

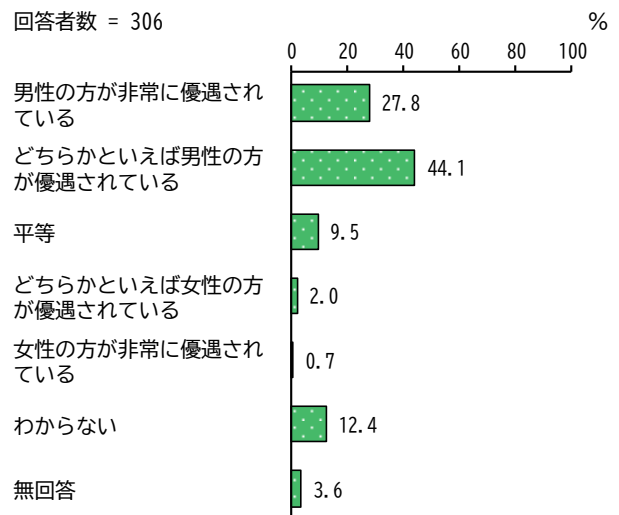
単位：%

区分	回答者数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえ ば男性の方が優 遇されている	平 等	どちらかといえ ば女性の方が優 遇されている	女性の方が非常 に優遇されている	わ か ら な い	無 回 答
全 体	306	5.6	31.0	22.2	9.2	1.3	24.2	6.5
男性	143	6.3	32.2	25.9	13.3	2.1	16.8	3.5
女性	157	5.1	30.6	19.7	5.7	0.6	31.2	7.0

⑤ 政治の場

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が44.1%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」の割合が27.8%、「わからない」の割合が12.4%となっています。

回答者数 = 306



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

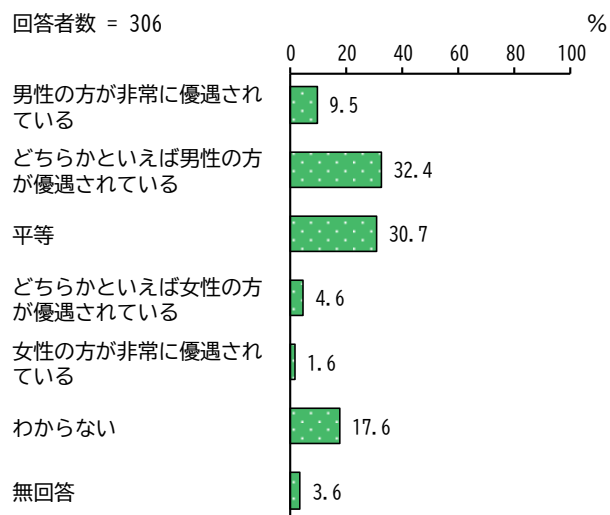
単位：%

区分	回答者数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえ ば男性の方が優 遇されている	平 等	どちらかといえ ば女性の方が優 遇されている	女性の方が非常 に優遇されている	わ か ら な い	無 回 答
全 体	306	27.8	44.1	9.5	2.0	0.7	12.4	3.6
男性	143	28.0	40.6	12.6	3.5	0.7	13.3	1.4
女性	157	28.0	48.4	7.0	0.6	0.6	12.1	3.2

⑥ 法律や制度の上

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が32.4%と最も高く、次いで「平等」の割合が30.7%、「わからない」の割合が17.6%となっています。

回答者数 = 306



【性別】

性別にみると、女性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。

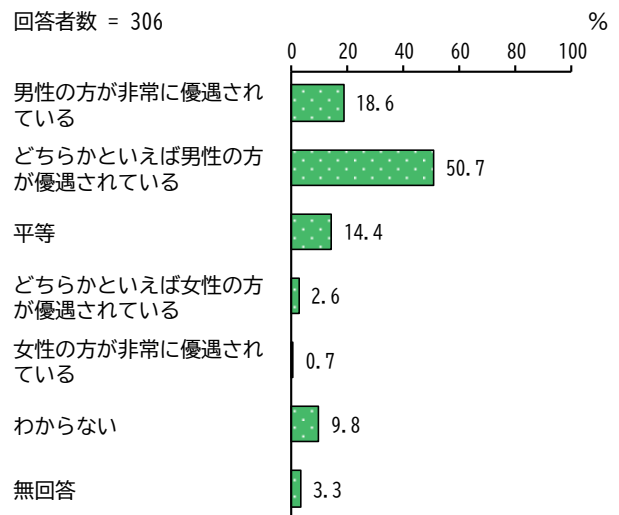
単位：%

区分	回答者数(件)	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全 体	306	9.5	32.4	30.7	4.6	1.6	17.6	3.6
男性	143	7.7	27.3	35.7	7.7	2.8	16.8	2.1
女性	157	11.5	37.6	27.4	1.9	0.6	18.5	2.5

⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が 50.7%と最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」の割合が 18.6%、「平等」の割合が 14.4%となっています。

回答者数 = 306



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

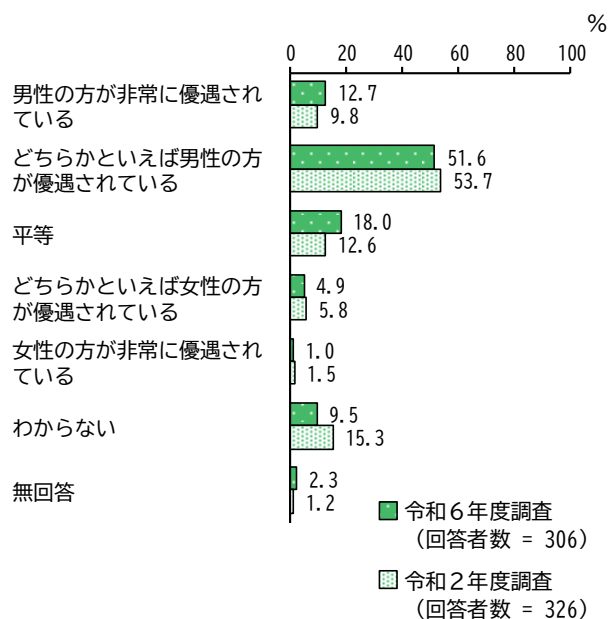
単位：%

区分	回答者数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえ ば男性の方が優 遇されている	平 等	どちらかといえ ば女性の方が優 遇されている	女性の方が非常 に優遇されている	わからない	無 回 答
全 体	306	18.6	50.7	14.4	2.6	0.7	9.8	3.3
男性	143	17.5	47.6	15.4	4.2	0.7	11.9	2.8
女性	157	20.4	54.8	13.4	1.3	0.6	8.3	1.3

⑧ 社会全体として

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が51.6%と最も高く、次いで「平等」の割合が18.0%、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が12.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「平等」の割合が増加しています。一方、「わからない」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

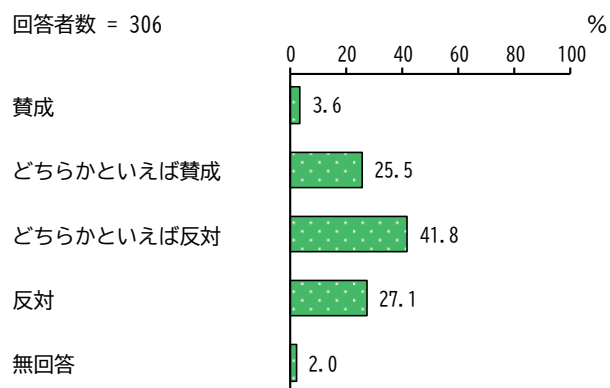
単位：％

区分	回答者数(件)	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全 体	306	12.7	51.6	18.0	4.9	1.0	9.5	2.3
男性	143	9.1	48.3	22.4	7.0	1.4	10.5	1.4
女性	157	16.6	55.4	14.6	3.2	0.6	8.9	0.6

問8 あなたは、「男性は外で働き、女性は家で家事・育児をする」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(○は1つ)

「どちらかといえば反対」の割合が41.8%と最も高く、次いで「反対」の割合が27.1%、「どちらかといえば賛成」の割合が25.5%となっています。

回答者数 = 306



【性別】

性別にみると、男性で「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっています。

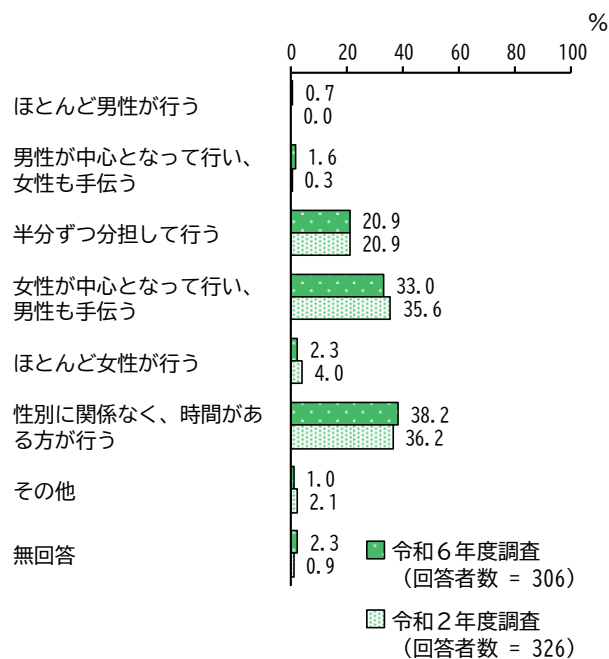
単位：%

区分	回答者数 (件)	賛成	賛成 どちらか といえば	反対 どちらか といえば	反対	無回答
全 体	306	3.6	25.5	41.8	27.1	2.0
男性	143	4.9	33.6	41.3	18.9	1.4
女性	157	1.9	19.1	43.9	35.0	—

問9 家事分担について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

「性別に関係なく、時間がある方が行う」の割合が38.2%と最も高く、次いで「女性が中心となって行い、男性も手伝う」の割合が33.0%、「半分ずつ分担して行う」の割合が20.9%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、女性で「性別に関係なく、時間がある方が行う」の割合が高くなっています。

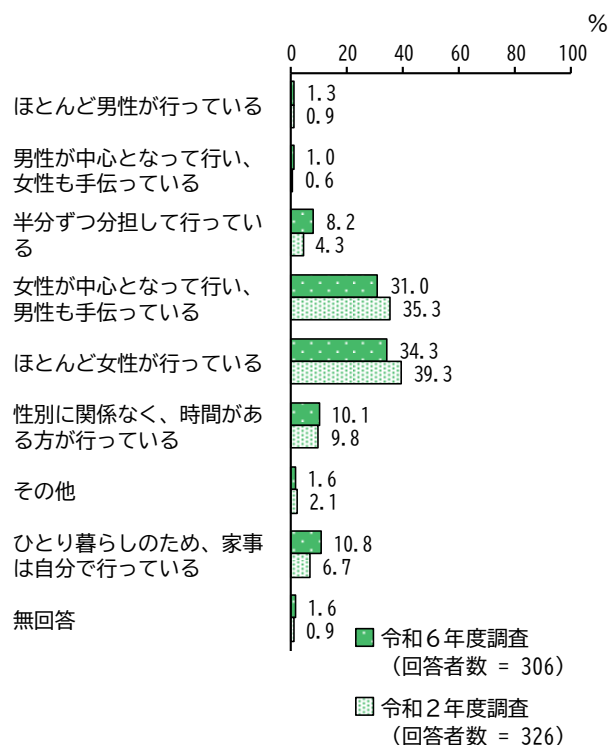
単位：%

区分	回答者数(件)	うほとんど男性が行	う男性が中心となつて行い、女性も手伝	う半分ずつ分担して行	う女性が中心となつて行い、男性も手伝	うほとんど女性が行	性別に関係なく、時間がある方が行う	その他	無回答
全 体	306	0.7	1.6	20.9	33.0	2.3	38.2	1.0	2.3
男性	143	0.7	2.8	20.3	39.9	2.8	30.8	1.4	1.4
女性	157	0.6	0.6	22.3	27.4	1.9	45.9	0.6	0.6

問 10 家事分担について、あなたの家庭の現実（現状）に最も近いものはどれですか。
ひとり暮らしの方は、「8 ひとり暮らしのため、家事は自分で行っている」に○をつけてください。（○は1つ）

「ほとんど女性が行っている」の割合が 34.3%と最も高く、次いで「女性が中心となって行い、男性も手伝っている」の割合が 31.0%、「ひとり暮らしのため、家事は自分で行っている」の割合が 10.8%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【性別】

性別にみると、女性で「ほとんど女性が行っている」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	ほとんど男性が行っている	男性が中心となって行い、女性も手伝っている	半分ずつ分担して行っている	女性が中心となって行い、男性も手伝っている	ほとんど女性が行っている	性別に関係なく、時間がある方が行っている	その他	ひとり暮らしのため、家事は自分で行っている	無回答
全 体	306	1.3	1.0	8.2	31.0	34.3	10.1	1.6	10.8	1.6
男性	143	2.1	1.4	7.0	34.3	28.0	11.2	1.4	14.7	—
女性	157	0.6	0.6	9.6	28.7	41.4	9.6	1.9	7.0	0.6

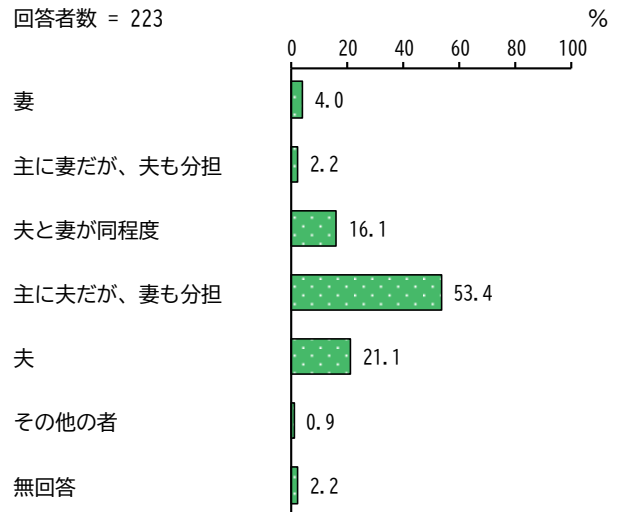
現在、配偶者（事実上の配偶者、パートナー）のいる方にお伺いします。

問 11 あなたの家庭では、次にあげる役割を、主にどなたが分担していますか。
（それぞれ○は1つ）

① 家計を支える（生活費を稼ぐ）

「主に夫だが、妻も分担」の割合が 53.4%と最も高く、次いで「夫」の割合が 21.1%、「夫と妻が同程度」の割合が 16.1%となっています。

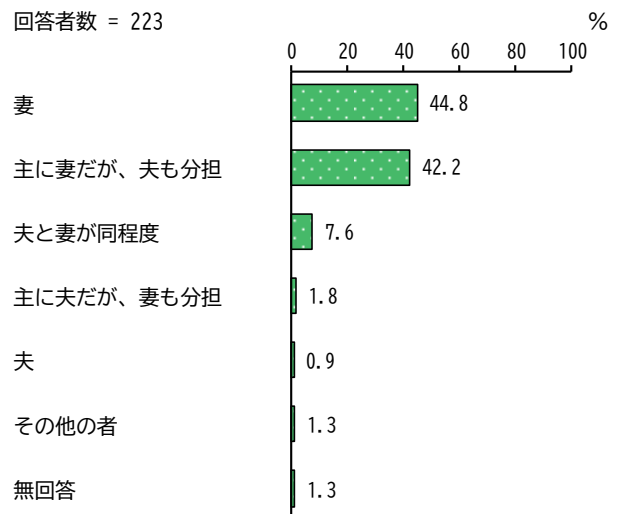
回答者数 = 223



② 掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする

「妻」の割合が 44.8%と最も高く、次いで「主に妻だが、夫も分担」の割合が 42.2%となっています。

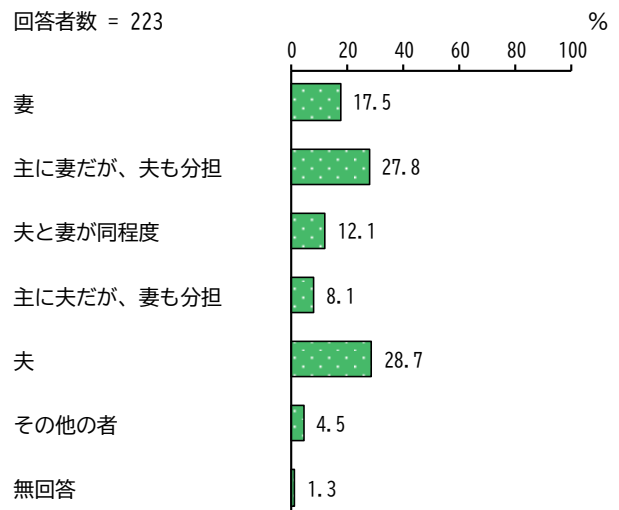
回答者数 = 223



③ ゴミ出しなどの簡単な家事をする

「夫」の割合が 28.7%と最も高く、次いで「主に妻だが、夫も分担」の割合が 27.8%、「妻」の割合が 17.5%となっています。

回答者数 = 223



④ 日々の家計の管理をする

「妻」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「主に妻だが、夫も分担」の割合が 13.9%、「夫と妻が同程度」の割合が 12.6%となっています。

回答者数 = 223

妻

主に妻だが、夫も分担

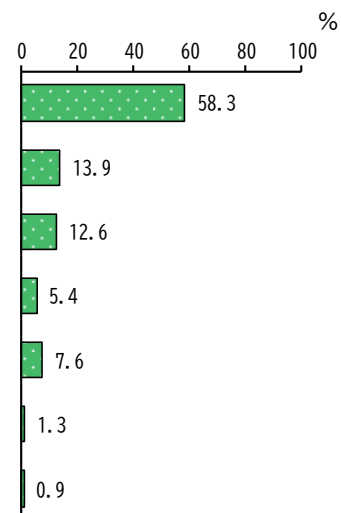
夫と妻が同程度

主に夫だが、妻も分担

夫

その他の者

無回答



⑤ 育児、子どものしつけをする

「同居の子どもや親がいない」の割合が 41.3%と最も高く、次いで「主に妻だが、夫も分担」の割合が 21.5%、「妻」の割合が 16.6%となっています。

回答者数 = 223

妻

主に妻だが、夫も分担

夫と妻が同程度

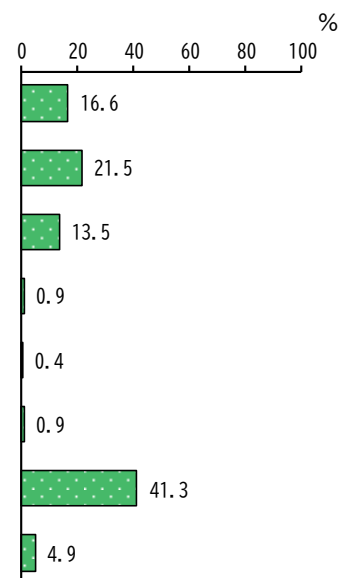
主に夫だが、妻も分担

夫

その他の者

同居の子どもや親がいない

無回答



⑥ 親の世話（介護）をする

「同居の子どもや親がいない」の割合が 58.3%と最も高くなっています。

回答者数 = 223

妻

主に妻だが、夫も分担

夫と妻が同程度

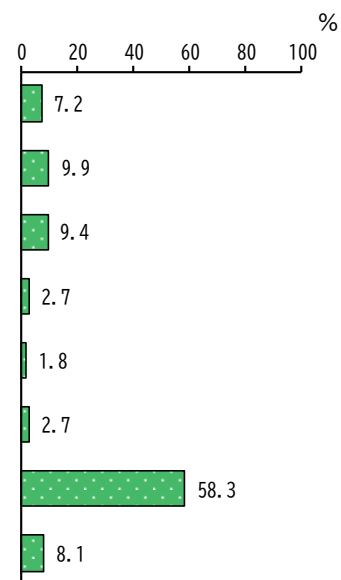
主に夫だが、妻も分担

夫

その他の者

同居の子どもや親がいない

無回答



⑦ 自治会・町内会などの地域活動を行う

「夫」の割合が 32.3%と最も高く、次いで「主に夫だが、妻も分担」の割合が 20.2%、「夫と妻が同程度」の割合が 17.9%となっています。

回答者数 = 223

妻

主に妻だが、夫も分担

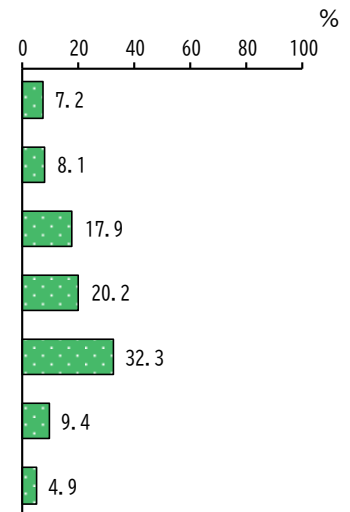
夫と妻が同程度

主に夫だが、妻も分担

夫

その他の者

無回答



⑧ 子どもの教育方針や進学目標を決める

「同居の子どもや親がいない」の割合が 41.7%と最も高く、次いで「夫と妻が同程度」の割合が 27.4%となっています。

回答者数 = 223

妻

主に妻だが、夫も分担

夫と妻が同程度

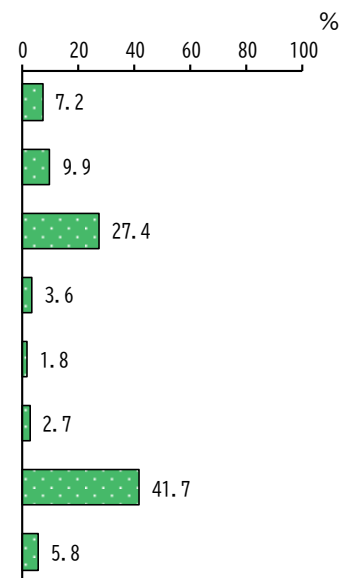
主に夫だが、妻も分担

夫

その他の者

同居の子どもや親がいない

無回答



⑨ 高額の商品や土地・家屋の購入を決める

「夫と妻が同程度」の割合が 44.4%と最も高く、次いで「夫」の割合が 21.5%、「主に夫だが、妻も分担」の割合が 20.6%となっています。

回答者数 = 223

妻

主に妻だが、夫も分担

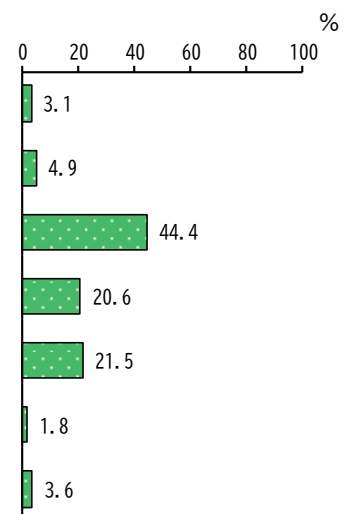
夫と妻が同程度

主に夫だが、妻も分担

夫

その他の者

無回答

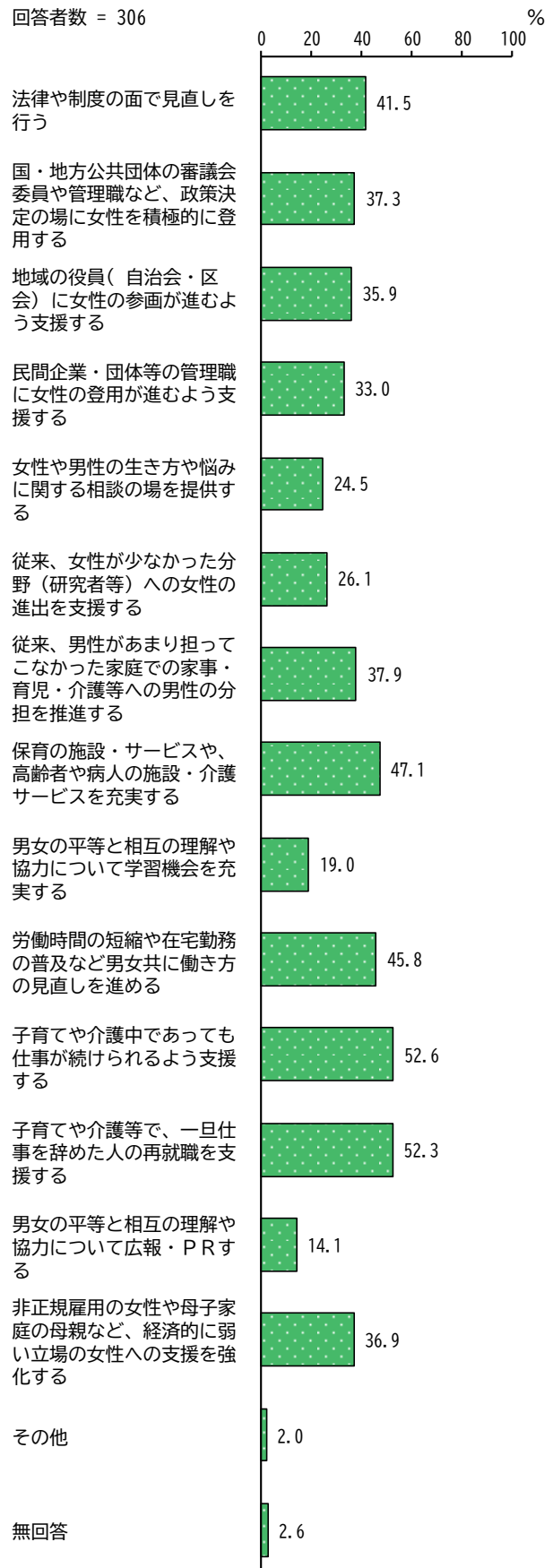


3 男女共同参画社会について

問 12 あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が 52.6%と最も高く、次いで「子育てや介護等で、一旦仕事を辞めた人の再就職を支援する」の割合が 52.3%、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する」の割合が 47.1%となっています。

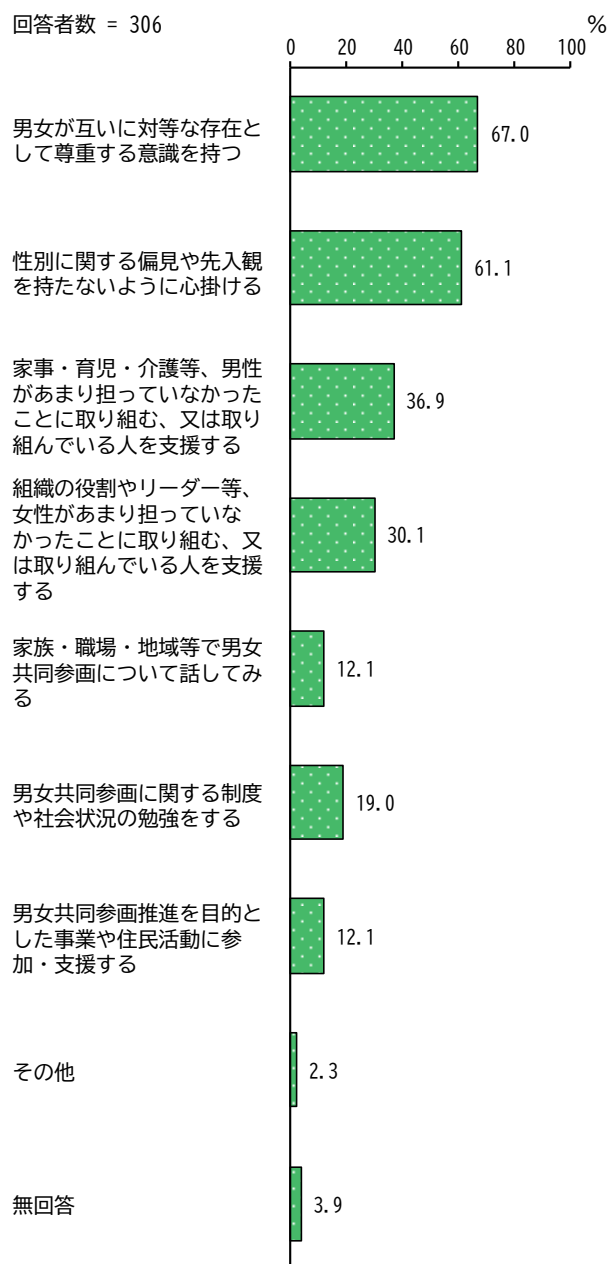
回答者数 = 306



問 13 男女共同参画社会の実現のために、あなた自身ができることは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

「男女が互いに対等な存在として尊重する意識を持つ」の割合が 67.0%と最も高く、次いで「性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける」の割合が 61.1%、「家事・育児・介護等、男性があまり担っていなかったことに取り組む、又は取り組んでいる人を支援する」の割合が 36.9%となっています。

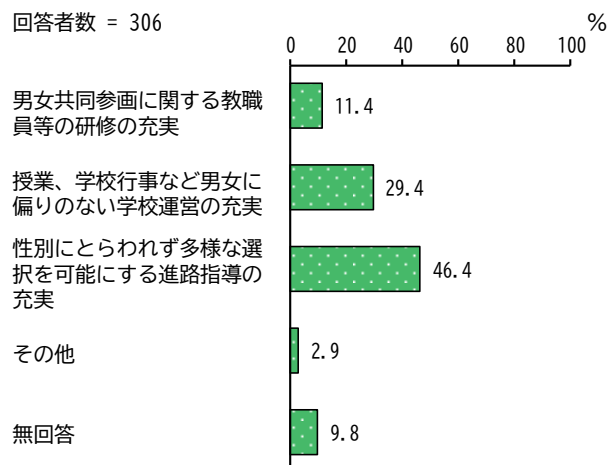
回答者数 = 306



問 14 あなたは、学校における人権の尊重、男女平等を推進する教育を進める上で、何が最も大切だと思いますか。(〇は1つ)

「性別にとらわれず多様な選択を可能にする進路指導の充実」の割合が 46.4%と最も高く、次いで「授業、学校行事など男女に偏りのない学校運営の充実」の割合が 29.4%、「男女共同参画に関する教職員等の研修の充実」の割合が 11.4%となっています。

回答者数 = 306

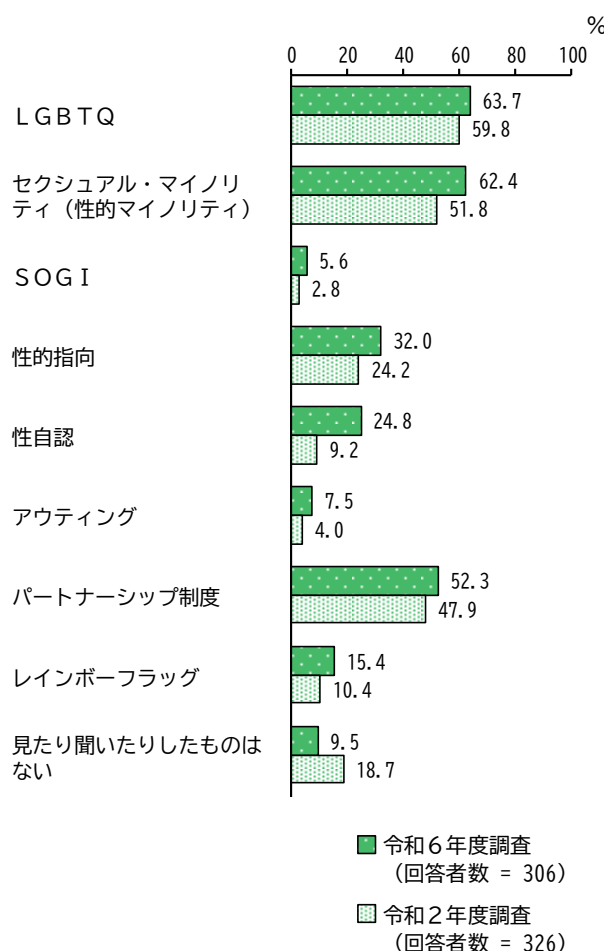


4 性の多様性について

問 15 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを教えてください。(〇はいくつでも)

「LGBTQ」の割合が63.7%と最も高く、次いで「セクシュアル・マイノリティ（性的マイノリティ）」の割合が62.4%、「パートナーシップ制度」の割合が52.3%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「セクシュアル・マイノリティ（性的マイノリティ）」「性的指向」「性自認」の割合が増加しています。一方、「見たり聞いたりしたものはない」の割合が減少しています。



問 16 性の多様性への理解を促進するために、あなたが行政に求める施策は何ですか。
(〇はいくつでも)

「相談窓口の設置」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「学校における教育活動」の割合が 45.4%、「パートナーシップ制度（性的マイノリティの人のパートナー関係を公的に証明する制度）の導入」の割合が 40.5%となっています。

回答者数 = 306

パートナーシップ制度（性的マイノリティの人のパートナー関係を公的に証明する制度）の導入

相談窓口の設置

学校における教育活動

講演会の開催

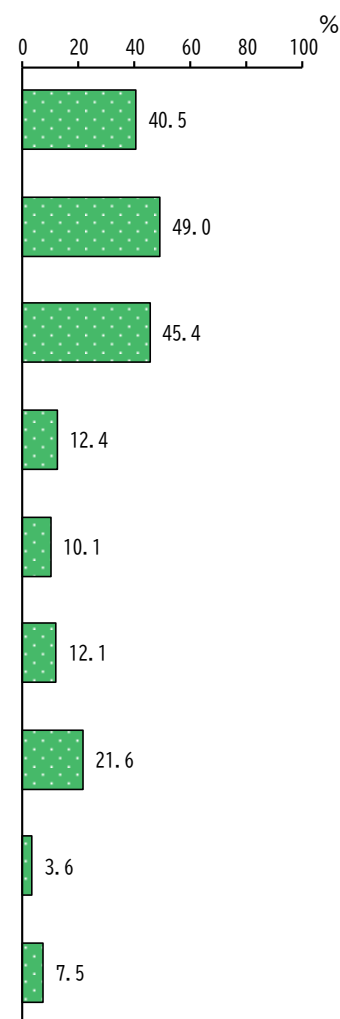
チラシや広報誌による啓発活動

企業向けセミナーの開催

当事者同士が交流できるイベントの開催

その他

無回答

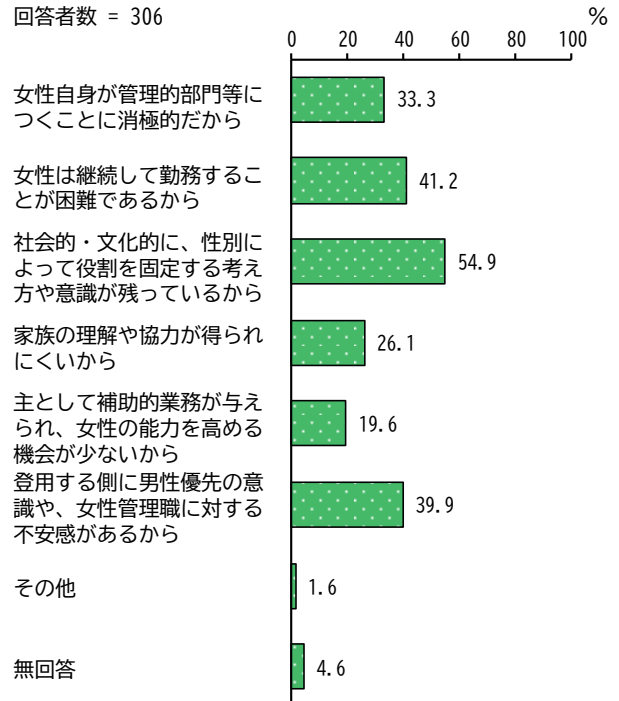


5 女性の社会進出について

問 17 現状では、意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が未だ少ない状況にあります。あなたは、その理由としてどのようなものがあると思いますか。
(〇は3つまで)

「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」の割合が54.9%と最も高く、次いで「女性は継続して勤務することが困難であるから」の割合が41.2%、「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」の割合が39.9%となっています。

回答者数 = 306



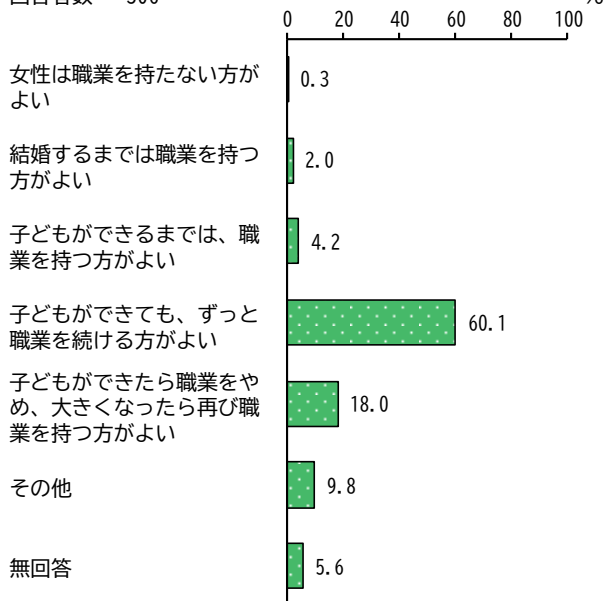
問 18 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。
(○は1つ)

「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が 60.1%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」の割合が 18.0%となっています。

令和2年度調査と選択肢が異なるため、参考として掲載します。

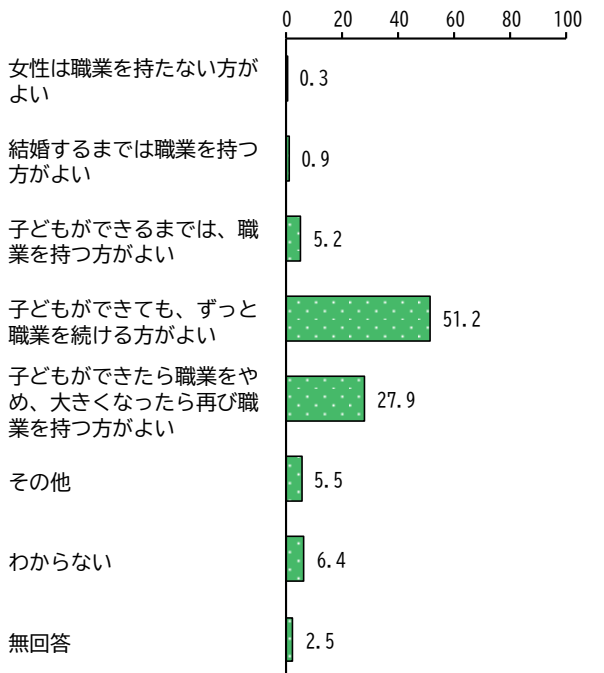
【令和6年度調査】

回答者数 = 306



【令和2年度調査】

回答者数 = 326



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

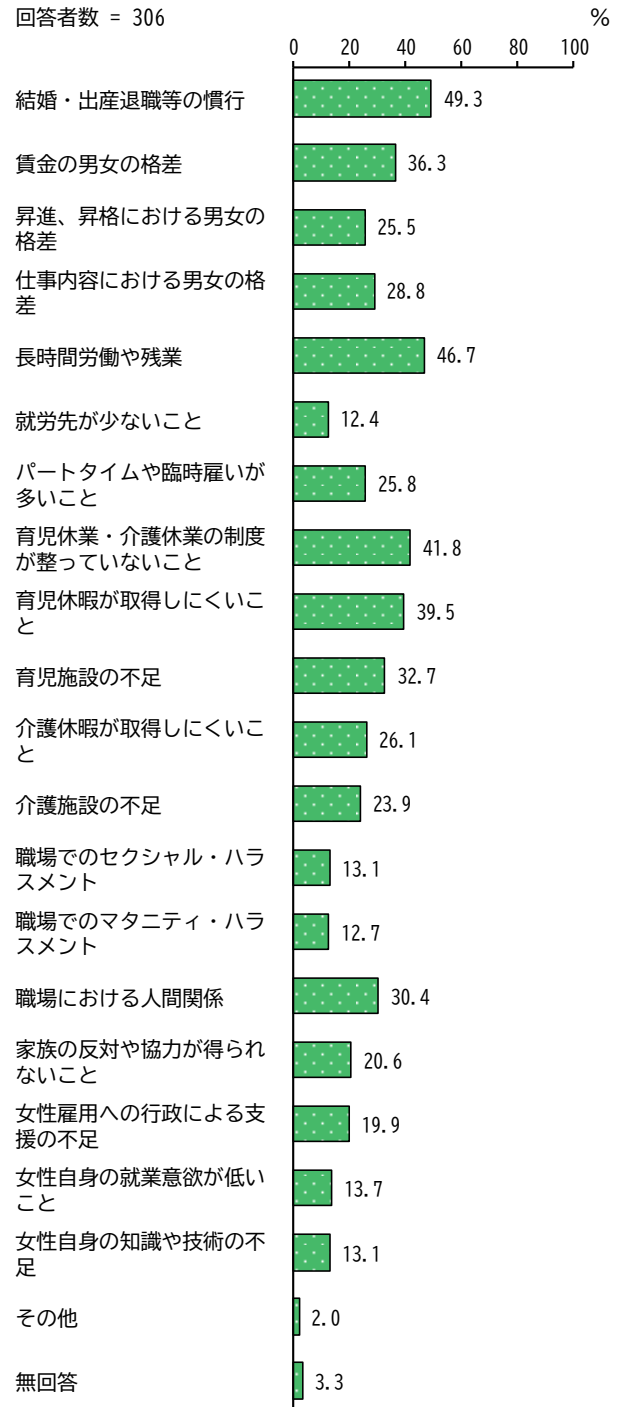
単位：%

区分	回答者数(件)	女性が職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい	その他	無回答
全 体	306	0.3	2.0	4.2	60.1	18.0	9.8	5.6
男性	143	—	1.4	7.0	58.7	16.1	11.2	5.6
女性	157	0.6	2.5	1.9	61.1	19.1	8.9	5.7

問 19 あなたは、女性が働く上での障害は何だと思いますか。(〇はいくつでも)

「結婚・出産退職等の慣行」の割合が 49.3%と最も高く、次いで「長時間労働や残業」の割合が 46.7%、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」の割合が 41.8%となっています。

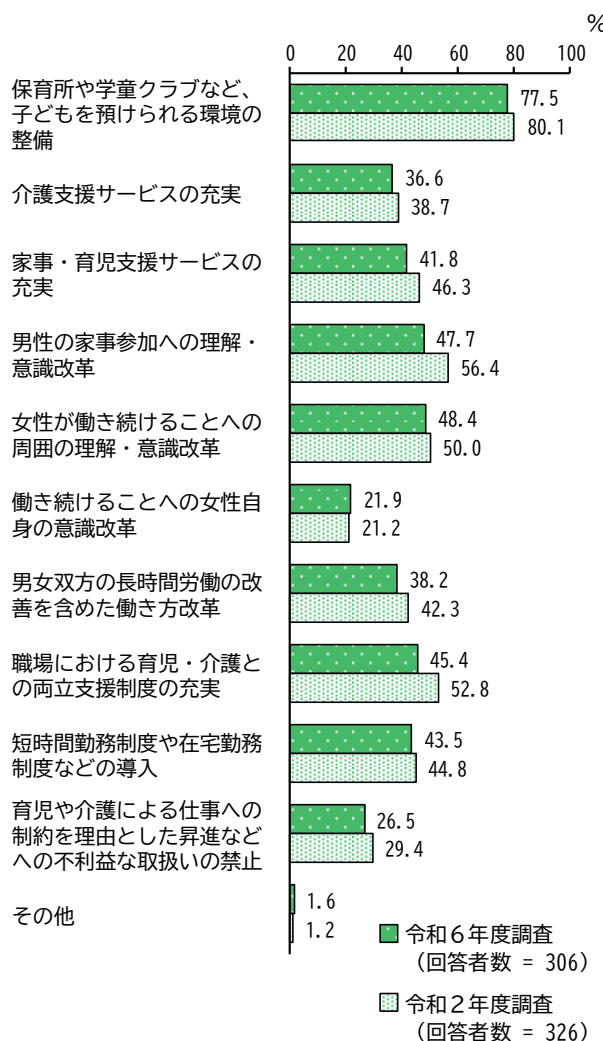
回答者数 = 306



問 20 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において、どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が77.5%と最も高く、次いで「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」の割合が48.4%、「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が47.7%となっています。

令和2年度調査と比較すると、「男性の家事参加への理解・意識改革」「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の割合が減少しています。



【性別】

性別にみると、女性で「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が高くなっています。

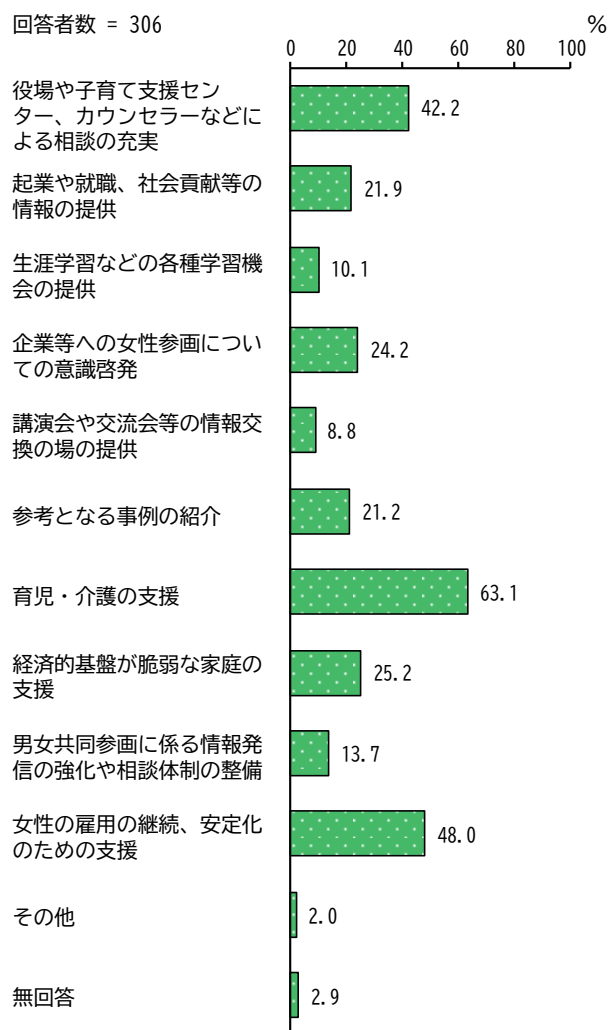
単位：％

区分	回答者数(件)	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	家事・育児支援サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他	無回答
全 体	306	77.5	36.6	41.8	47.7	48.4	21.9	38.2	45.4	43.5	26.5	1.6	1.3
男性	143	74.1	31.5	41.3	39.2	46.2	22.4	32.9	40.6	35.7	26.6	0.7	2.1
女性	157	80.3	40.1	41.4	55.4	49.7	21.7	42.0	48.4	50.3	24.8	2.5	0.6

問 21 女性の社会参画をさらに進めるためには、女性が活躍するための支援が重要で
す。あなたは、女性の社会参画のために、町政としてどのような取組が必要だと思
いますか。(〇はいくつでも)

「育児・介護の支援」の割合が 63.1%と最も高
く、次いで「女性の雇用の継続、安定化のための
支援」の割合が 48.0%、「役場や子育て支援セン
ター、カウンセラーなどによる相談の充実」の割
合が 42.2%となっています。

回答者数 = 306

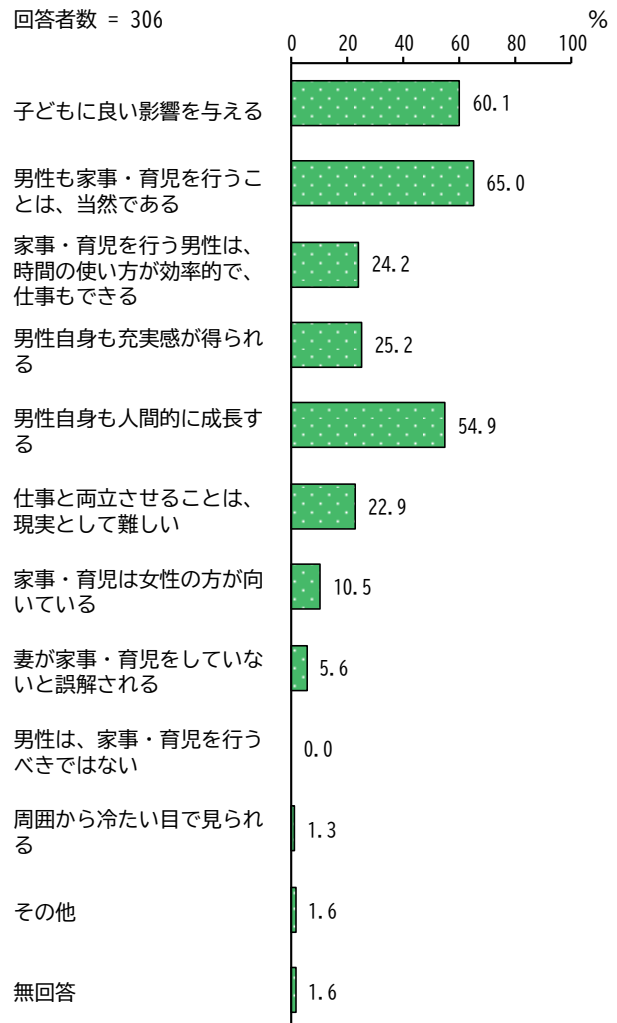


6 男性の家事・育児などへの参加について

問 22 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。(〇はいくつでも)

「男性も家事・育児を行うことは、当然である」の割合が 65.0%と最も高く、次いで「子どもに良い影響を与える」の割合が 60.1%、「男性自身も人間的に成長する」の割合が 54.9%となっています。

回答者数 = 306



【性別】

性別にみると、女性で「子どもに良い影響を与える」の割合が高くなっています。

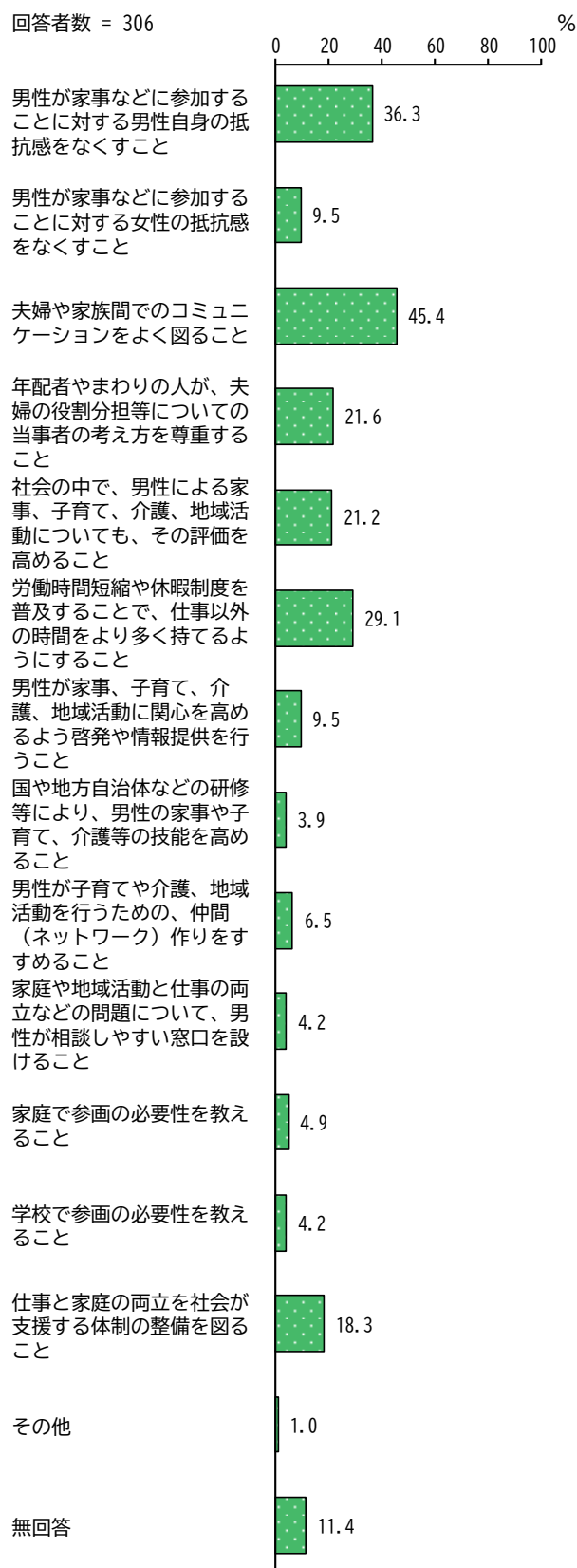
単位：%

区分	回答者数(件)	子どもに良い影響を与える	男性も家事・育児を行うことは、当然である	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	男性自身も充実感が得られる	男性自身も人間的に成長する	仕事と両立させることは、現実として難しい	家事・育児は女性の方が向いている	妻が家事・育児をしていないと誤解される	男性は、家事・育児を行うべきではない	周囲から冷たい目で見られる	その他	無回答
全 体	306	60.1	65.0	24.2	25.2	54.9	22.9	10.5	5.6	—	1.3	1.6	1.6
男性	143	46.9	65.0	21.0	23.8	47.6	25.2	16.1	2.1	—	0.7	0.7	2.8
女性	157	71.3	65.0	28.0	26.1	61.8	21.7	5.7	7.6	—	1.3	1.9	0.6

問 23 あなたは、男性の「地域活動」や「家事・育児・介護等の家庭生活における活動」への参画を進めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」の割合が 45.4%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が 36.3%、「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が 29.1%となっています。

回答者数 = 306

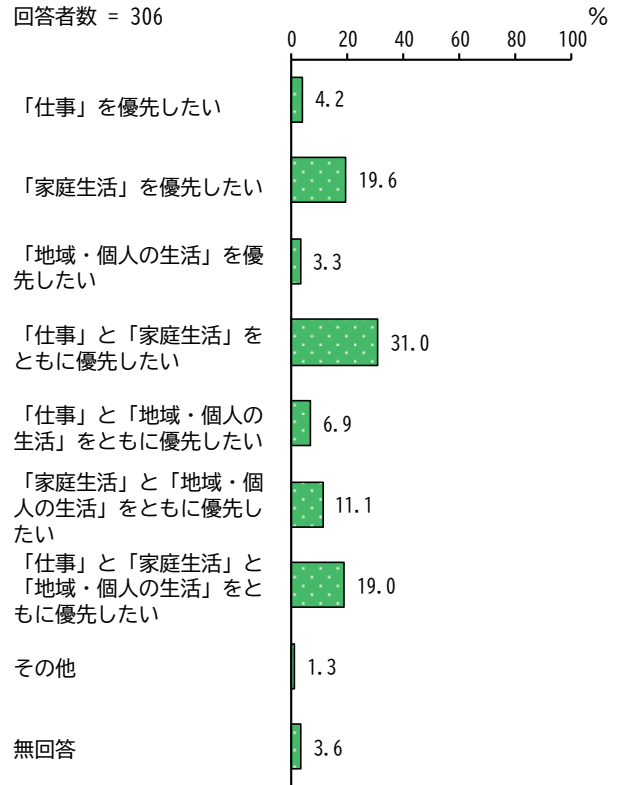


7 ワーク・ライフ・バランスについて

問 24 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い）の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。（〇は1つ）

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」の割合が31.0%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい」の割合が19.6%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の割合が19.0%となっています。

回答者数 = 306



【性別】

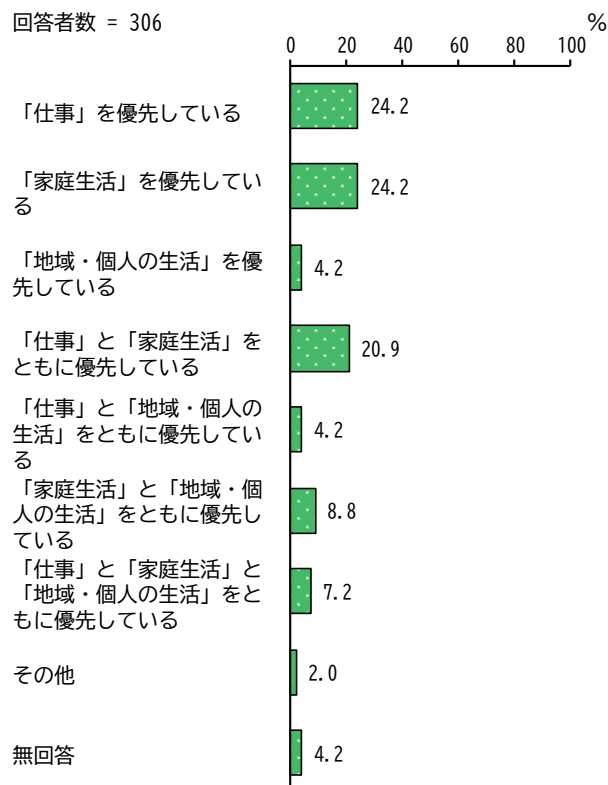
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数(件)	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	その他	無回答
全 体	306	4.2	19.6	3.3	31.0	6.9	11.1	19.0	1.3	3.6
男性	143	7.0	16.1	4.2	29.4	11.2	9.8	16.8	2.8	2.8
女性	157	1.9	22.3	1.9	32.5	3.2	12.7	21.7	—	3.8

問 25 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（○は1つ）

「仕事」を優先している」、「家庭生活」を優先している」の割合が24.2%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の割合が20.9%となっています。



【性別】

性別にみると、男性で「仕事」を優先している」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	その他	無回答
全 体	306	24.2	24.2	4.2	20.9	4.2	8.8	7.2	2.0	4.2
男性	143	30.8	16.8	6.3	19.6	7.0	5.6	7.0	2.1	4.9
女性	157	17.8	30.6	2.5	22.3	1.9	12.1	7.6	1.9	3.2

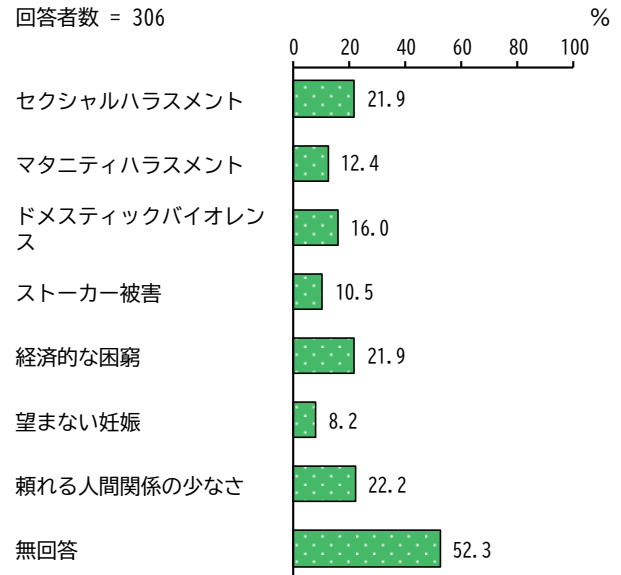
8 あらゆる暴力の根絶と困難な問題を抱える女性への支援について

問 26 以下の困難な問題で、あなたがこれまでに、見聞きしたり、経験したりしたことがあるものはありますか。(〇はいくつでも)

① 周囲の人で見聞きした

「頼れる人間関係の少なさ」の割合が 22.2%と最も高く、次いで「セクシャルハラスメント」、「経済的な困窮」の割合が 21.9%となっています。

回答者数 = 306



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

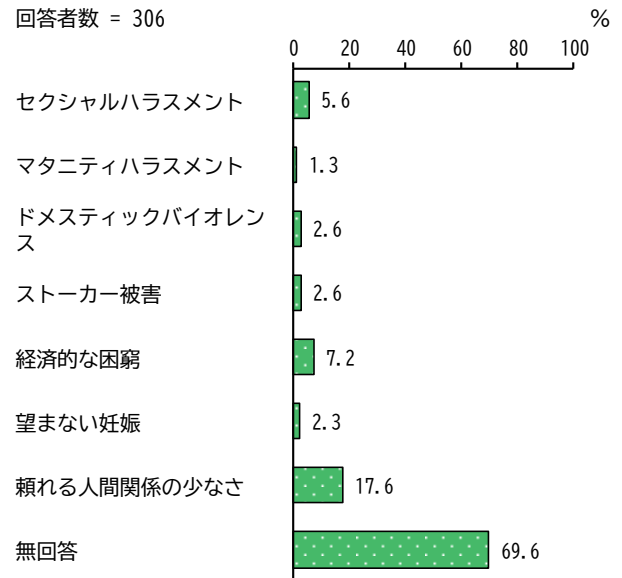
単位：%

区分	回答者数 (件)	セクシャルハラスメント	マタニティハラスメント	ドメスティックバイオレンス	ストーカー被害	経済的な困窮	望まない妊娠	頼れる人間関係の少なさ	無回答
全 体	306	21.9	12.4	16.0	10.5	21.9	8.2	22.2	52.3
男性	143	25.9	14.0	14.7	12.6	24.5	10.5	20.3	52.4
女性	157	19.1	11.5	17.8	8.9	20.4	6.4	24.8	50.3

② 自分自身が経験した

「頼れる人間関係の少なさ」の割合が17.6%と最も高くなっています。

回答者数 = 306



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

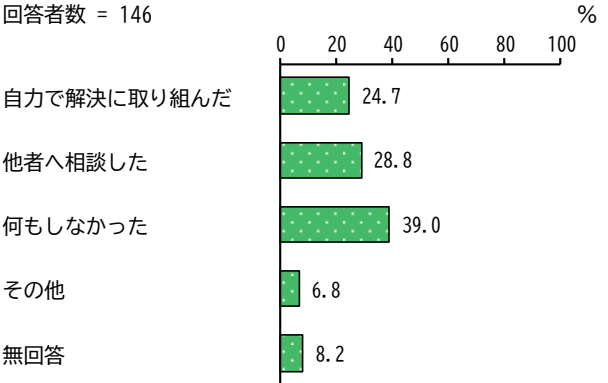
単位：%

区分	回答者数(件)	セクシャルハラスメント	マタニティハラスメント	ドメスティックバイオレンス	ストーカー被害	経済的な困窮	望まない妊娠	頼れる人間関係の少なさ	無回答
全 体	306	5.6	1.3	2.6	2.6	7.2	2.3	17.6	69.6
男性	143	1.4	0.7	1.4	0.7	7.7	2.1	14.7	75.5
女性	157	9.6	1.9	3.8	4.5	7.0	2.5	21.0	63.1

問 26 で○をつけた方にお伺いします。

問 26-1 あなたは、お答えいただいた項目を見聞きしたとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。(○はいくつでも)

「何もしなかった」の割合が 39.0%と最も高く、次いで「他者へ相談した」の割合が 28.8%、「自力で解決に取り組んだ」の割合が 24.7%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

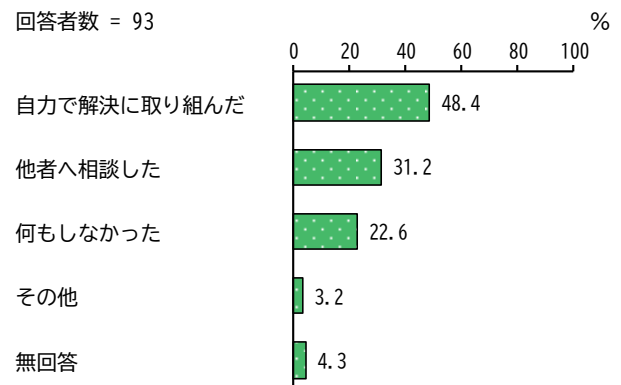
区分	回答者数 (件)	自力で 解決に 取り組 んだ	他者へ 相談した	何もし なかつた	その他	無回 答
全 体	146	24.7	28.8	39.0	6.8	8.2
男性	68	22.1	26.5	38.2	7.4	10.3
女性	78	26.9	30.8	39.7	6.4	6.4

問 26 で○をつけた方にお伺いします。

問 26-2 あなたは、お答えいただいた項目を経験したとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。(○はいくつでも)

「自力で解決に取り組んだ」の割合が 48.4%と最も高く、次いで「他者へ相談した」の割合が 31.2%、「何もしなかった」の割合が 22.6%となっています。

回答者数 = 93



【性別】

性別にみると、女性で「何もしなかった」の割合が高くなっています。

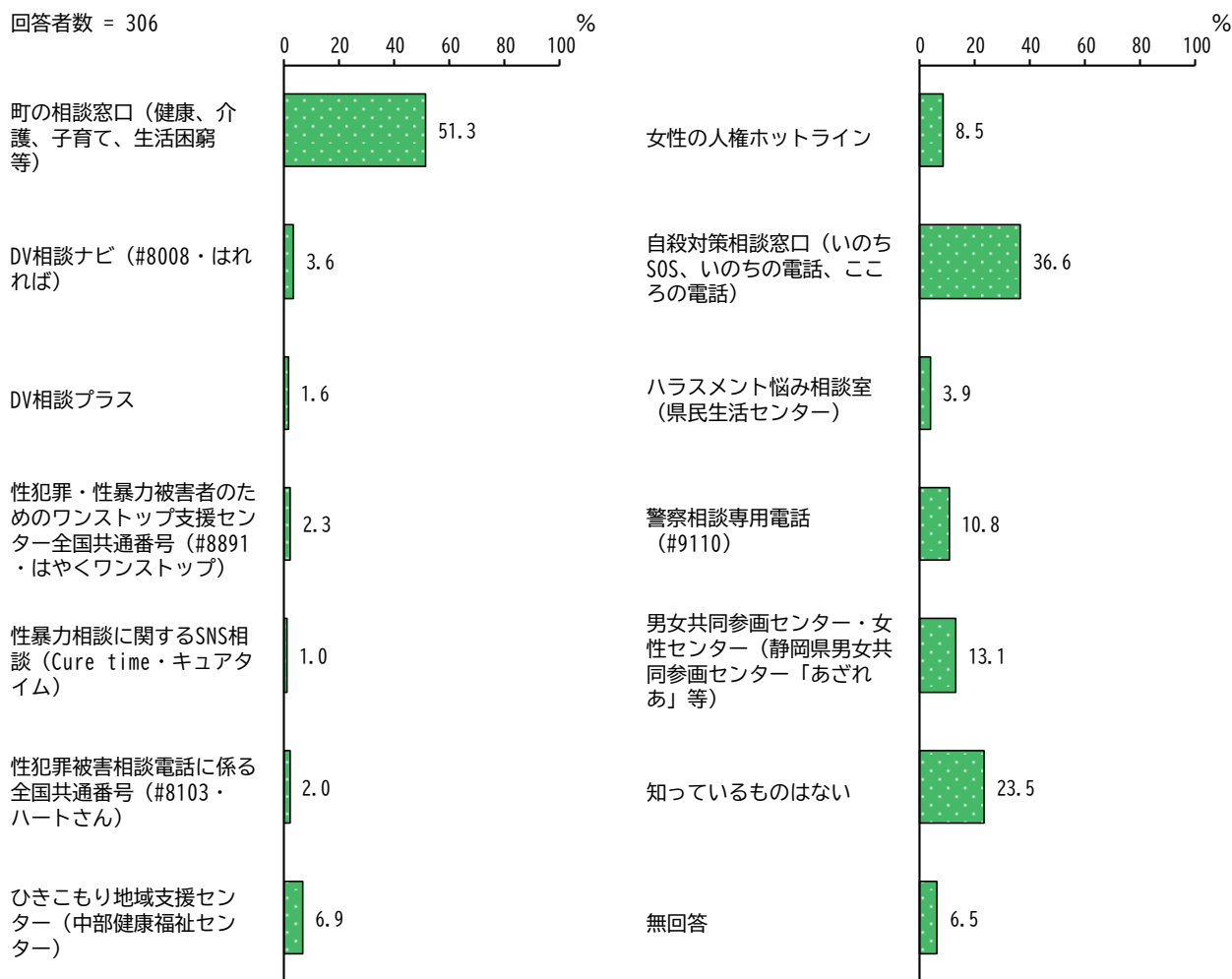
単位：%

区分	回答者数 (件)	自力で 解決に 取り組 んだ	他者へ 相談した	何もし なかつた	その他	無回 答
全 体	93	48.4	31.2	22.6	3.2	4.3
男性	35	54.3	22.9	11.4	5.7	11.4
女性	58	44.8	36.2	29.3	1.7	—

問 27 困難な問題に関する相談窓口などについて、あなたが知っているものをあげてください。(〇はいくつでも)

「町の相談窓口（健康、介護、子育て、生活困窮 等）」の割合が 51.3%と最も高く、次いで「自殺対策相談窓口（いのち SOS、いのちの電話、こころの電話）」の割合が 36.6%、「知っているものはない」の割合が 23.5%となっています。

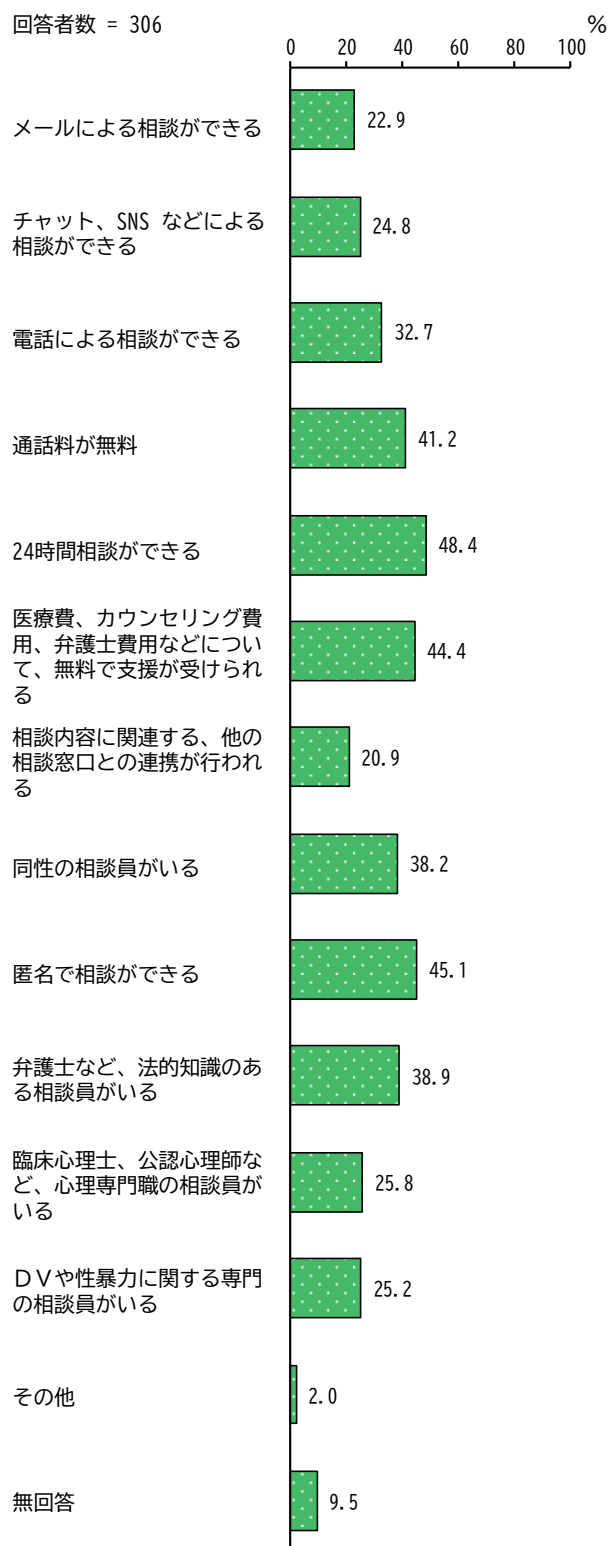
回答者数 = 306



問 28 あなたは、女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

「24 時間相談ができる」の割合が 48.4%と最も高く、次いで「匿名で相談ができる」の割合が 45.1%、「医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる」の割合が 44.4%となっています。

回答者数 = 306



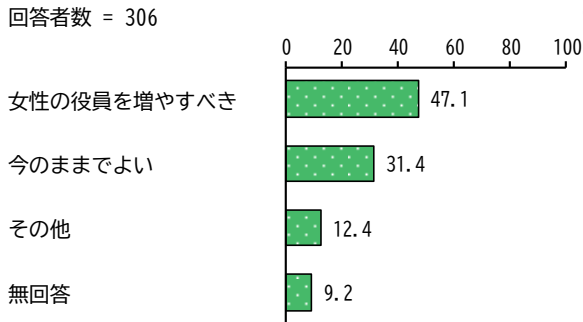
9 地域活動について

問 29 あなたは、自治会の役員に女性が少ない現状について、どのように思いますか。
(○は1つ)

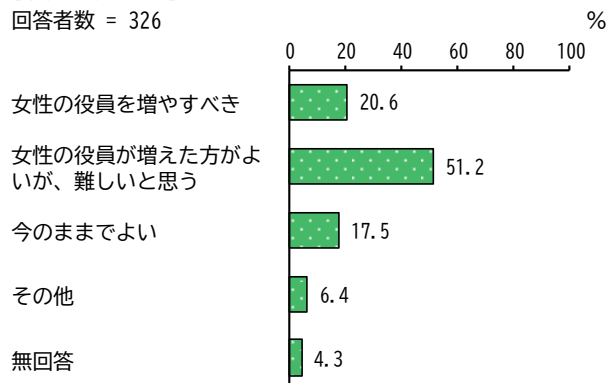
「女性の役員を増やすべき」の割合が47.1%、「今のままでよい」の割合が31.4%となっています。

令和2年度調査と選択肢が異なるため、参考として掲載します。

【令和6年度調査】
回答者数 = 306



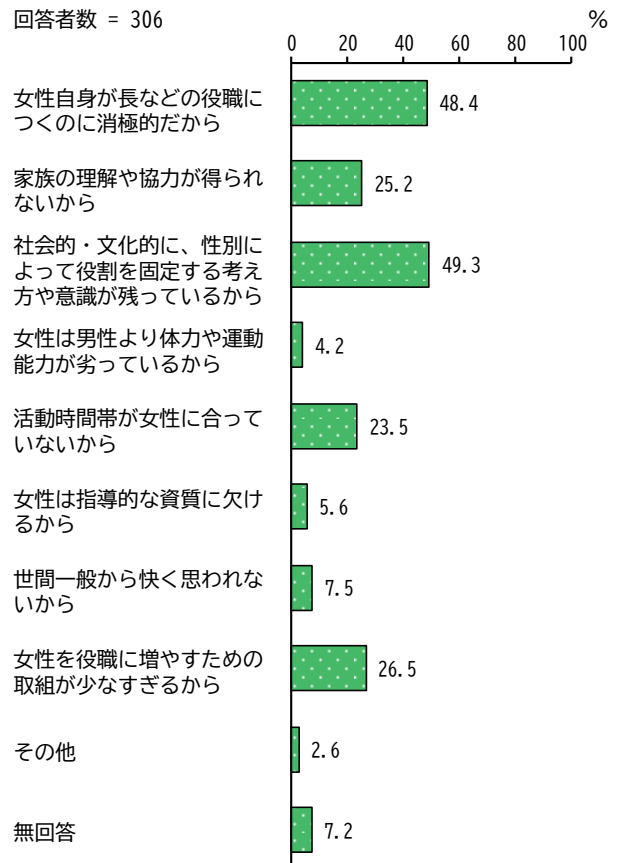
【令和2年度調査】
回答者数 = 326



問 30 地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ないのが現状です。あなたは、この主な理由について、どのように思いますか。(○は3つまで)

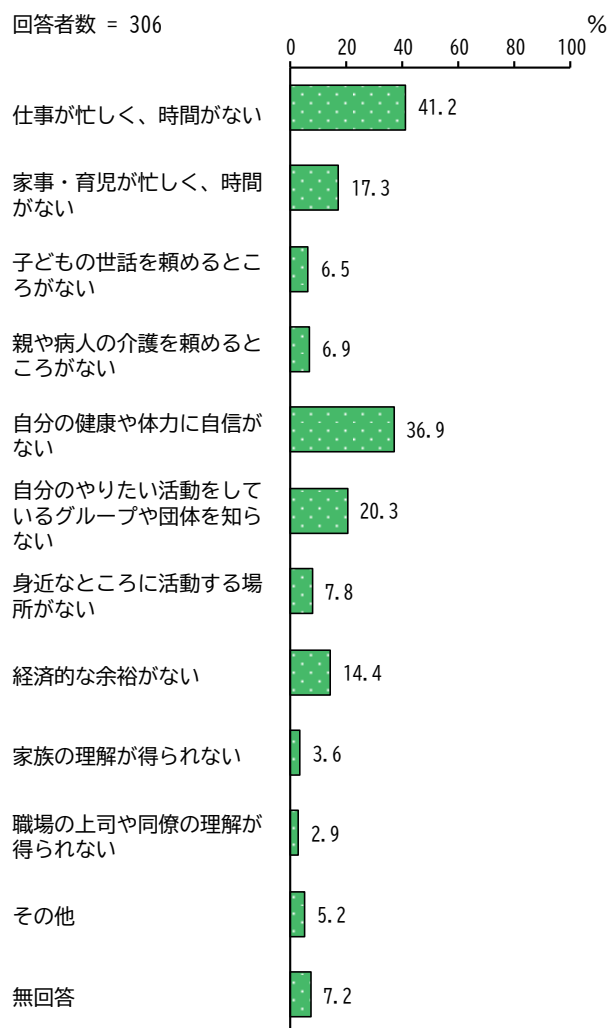
「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」の割合が49.3%と最も高く、次いで「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」の割合が48.4%、「女性を役職に増やすための取組が少なすぎるから」の割合が26.5%となっています。

回答者数 = 306



問 31 あなたが現在（あるいは今後）、地域活動に参加しようとする時、何か障害になるようなことがありますか。（〇はいくつでも）

「仕事が忙しく、時間がない」の割合が 41.2%と最も高く、次いで「自分の健康や体力に自信がない」の割合が 36.9%、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」の割合が 20.3%となっています。



【性別】

性別にみると、女性で「家事・育児が忙しく、時間がない」の割合が高くなっています。

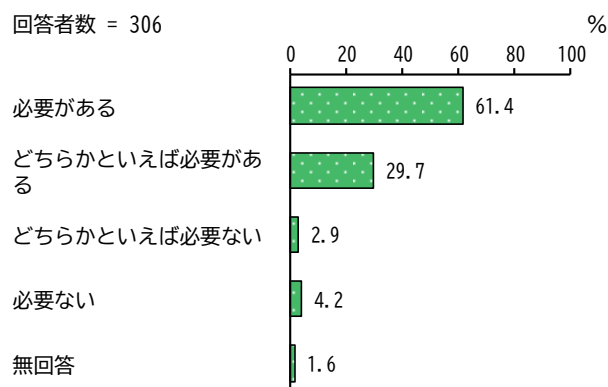
単位：%

区分	回答者数（件）	仕事が忙しく、時間がない	家事・育児が忙しく、時間がない	子どもの世話を頼めるところがない	親や病人の介護を頼めるところがない	自分の健康や体力に自信がない	自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	身近なところに活動する場所がない	経済的な余裕がない	家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない	その他	無回答
全 体	306	41.2	17.3	6.5	6.9	36.9	20.3	7.8	14.4	3.6	2.9	5.2	7.2
男性	143	45.5	9.8	4.9	2.8	33.6	17.5	7.7	14.7	2.1	4.2	4.9	9.1
女性	157	37.6	24.2	7.6	8.9	39.5	22.9	7.6	14.0	5.1	1.9	5.7	5.1

10 防災・災害復興対策について

問 32 あなたは、防災・災害復興対策において、性別や多様性に配慮した対応が必要だと思いますか。(○は1つ)

「必要がある」の割合が61.4%と最も高く、次いで「どちらかといえば必要がある」の割合が29.7%となっています。



【性別】

性別にみると、女性で「必要がある」の割合が高くなっています。

単位：％

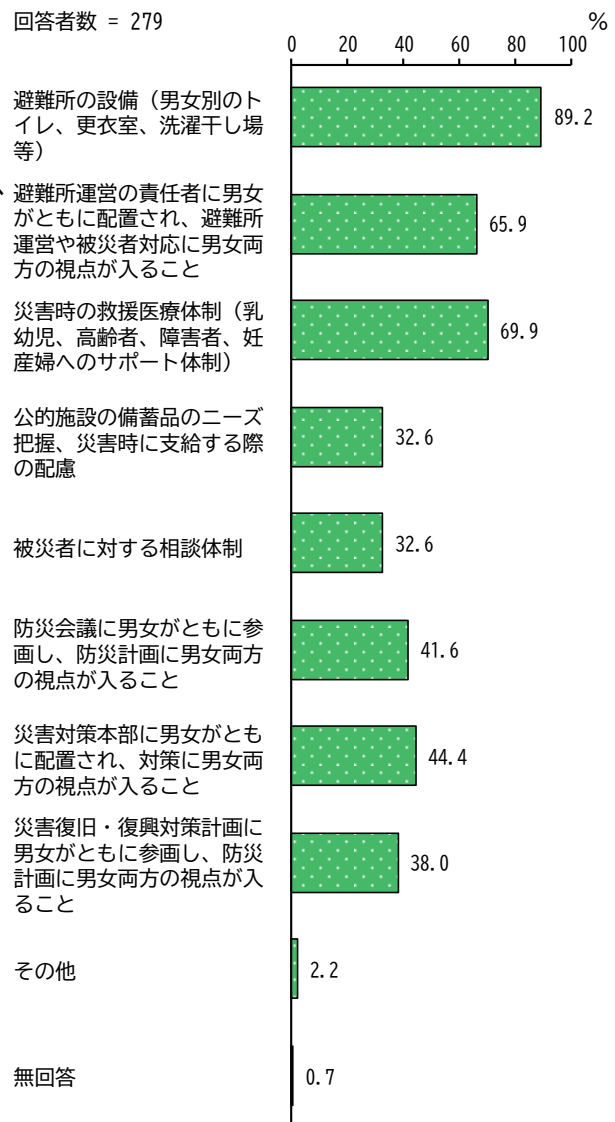
区分	回答者数 (件)	必要がある	どちらか といえば 必要がある	どちらか といえば 必要ない	必要ない	無回答
全 体	306	61.4	29.7	2.9	4.2	1.6
男性	143	54.5	30.1	4.9	8.4	2.1
女性	157	68.2	29.3	0.6	0.6	1.3

問 32 で「1 必要がある」「2 どちらかといえば必要がある」と答えた方にお伺いします。

問 32-1 あなたは、防災・災害復興対策において、性別や多様性に配慮した対応が必要なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）」の割合が 89.2%と最も高く、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）」の割合が 69.9%、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」の割合が 65.9%となっています。

回答者数 = 279



【性別】

性別にみると、女性で「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）」の割合が高くなっています。

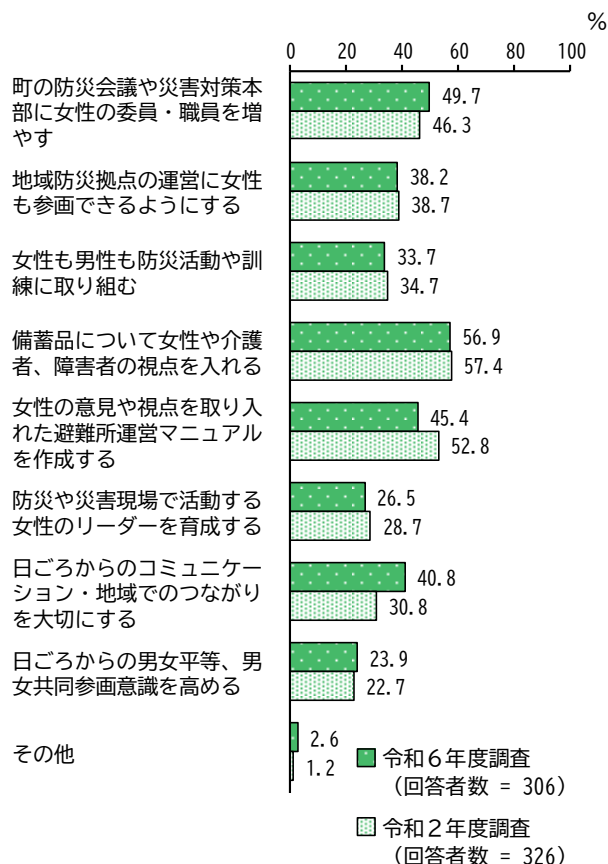
単位：％

区分	回答者数（件）	避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）	避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること	災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）	公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮	被災者に対する相談体制	防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること	災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること	災害復旧・復興対策計画に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること	その他	無回答
全 体	279	89.2	65.9	69.9	32.6	32.6	41.6	44.4	38.0	2.2	0.7
男性	121	85.1	66.9	63.6	24.8	33.9	42.1	44.6	40.5	4.1	—
女性	153	92.2	64.1	75.8	37.3	31.4	40.5	43.8	35.3	0.7	1.3

問 33 災害時における避難所運営に女性が参画していない、平常時の防災や震災対応に女性の視点がない等の問題が指摘されています。あなたは、災害に備えるために、これからどのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」の割合が 56.9%と最も高く、次いで「町の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす」の割合が 49.7%、「女性の意見や視点を取り入れた避難所運営マニュアルを作成する」の割合が 45.4%となっています。

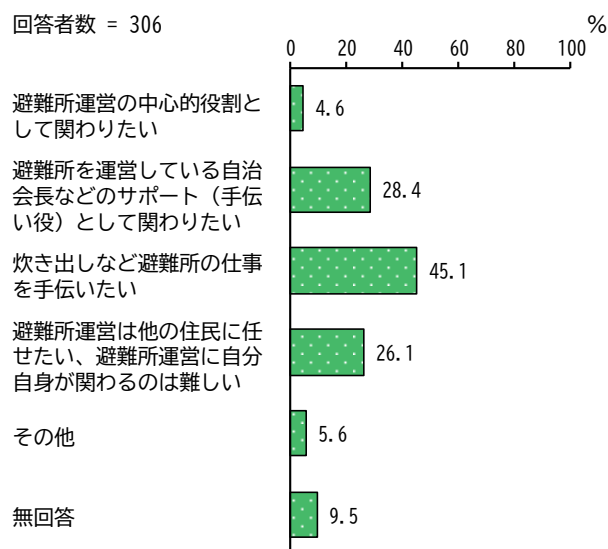
令和2年度調査と比較すると、「日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」の割合が増加しています。一方、「女性の意見や視点を取り入れた避難所運営マニュアルを作成する」の割合が減少しています。



問 34 大規模災害が発生した場合、避難所生活を強いられる可能性があります。仮に避難所生活になった場合、あなたは、避難所の運営等に何らかの形で関わりたいと思いますか。(〇はいくつでも)

「炊き出しなど避難所の仕事を手伝いたい」の割合が 45.1%と最も高く、次いで「避難所を運営している自治会長などのサポート（手伝い役）として関わりたい」の割合が 28.4%、「避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身が関わるのは難しい」の割合が 26.1%となっています。

回答者数 = 306



問 35 地域の役員（例：自治会、町内会、交通指導員 等）について、どうしたら女性が登用されるようになってと思いますか。御自由に御記入ください。

主な意見

- ・ それぞれの生活が忙しく日々送っている中で登用してほしい人は参加をすすめても後向きな人が多い。コロナから世の中ががらりと変わってしまい。いろいろな集まりにも参加する人が少ないと思う。
- ・ 経済的に共働きでないと家庭が成り立たないので、フルタイムで働いているが、仕事は定時で終わらず呼び出しもあり、子どもや家庭のことも犠牲になっている。このまま役割が増えると身も心も持たない。そこから改善されないと参画は難しいと思います。
- ・ そもそも女性が地域の役員になりたいと思っているのでしょうか？女性（個人）の意思を尊重してほしいです。行政が強制的に参加させる又は圧力をかける事は逆の意味でのハラスメントだと思います。
- ・ 「女性の登用」とは違う意見ですいません。役員決めの時期になると毎年、嫌な気分になります。ある年「健康面の理由」で断ろうとしたが、順番だからと聞きいれてもらえず、結局、大勢の前で病状を伝えなければならず、とても悲しい気持ちになった。次の年、次の年も今年はできるかと聞かれ、周りの人達ともギクシャクしてしまった。また支部長、副支部長を決める際も、性格の「向き不向き」もあるし、家庭の事情もあるのに、「どの家も同じ」という一言で、ジャンケンやクジで決められてしまう。支部長等、おかずに役員全員が同じ平等な立場で活動することはできないか。高齢化がすすみ、高齢の人にも無理して役をやってもらったり、忙しい若い人達にも負担がかかっている。本当に必要な役なのか。末端では、いろんな所で人間関係にヒビがはいっていると思う。役ができない人は断れる選択肢があってもいいのでは。やれない人が増えると、若い人達が、複数の役を同時にうけたり、毎年、なにかの役が回ってきて負担が多くなるため、本当に必要な役だけにしてほしい。
- ・ 男性は外で働き、女性は家事という考えがある限り、難しいと思います。今の若いパパ達を見習っていただきたいです（協力的です）。女性に時間と余裕が必要です。国会議員の女性率はもっと上がらないと。
- ・ まずは、組長さんは男性が多いので女性の登用から始める。
- ・ 今、自分がと考えると、家事、子育て、仕事があり、とても余裕がない。今後も余裕ができるのかと思うとあまりかわらない気もする。その頃には自分の健康状態が不安。時間や、かわり方に工夫が必要かなと思う。男性と同じようにはできないのかも。
- ・ 自治会に関しての参加は、特に、していなかった。組の仕事も、私より年齢の上の方は、「地域」のことに女性がでていくことに対しよく思っていないからだ。女性が女性を差別する世代がある。役割を簡潔明瞭にされていない部分、人間関係とか。意識改善が必要。
- ・ リーダーは男性。女性は補助という、世間の目を、古い考えを、皆で改めていく。女性の発言を大切にする姿勢を皆で持つ。

問 36 男女共同参画の推進に当たり、御意見がありましたら、御自由に御記入ください。

1 男女平等に対する意識について

- ・ 小さい時からの教育が大事だと思います。学生時代から学んで、各家庭で話し合う事ができれば意識が特別な事ではなく、あたりまえの事としてとらえられるようになるのではないのでしょうか。
- ・ 特にありませんが、女性の人権がもう少し男性に近くなってほしいです。
- ・ 男女平等は大事だけど、運動会で競わせないとか呼び方を皆一緒にするだとかやらなくて良いことはしなくて良くないですか。正直やりすぎていて引きます。子ども達を奮闘させつつやるとか男だから女だからとか思うのは本人達もだと思うのでそれをふっしょくできる学習をすれば良いと思いますが、具体的とは何も言えません。やりすぎは良くないという点は本気で思います。
- ・ 地方に行けば行く程、女性をバカにしているような風習があるので女のくせにとか嫁のくせに、女の人一人の人間なので大事にしてほしい。
- ・ まず男の意識改革が必要だと思う。
- ・ 日本全体の意識が変わらない限り無理そう
- ・ まずは皆さんの意識を変えないとかわらない
- ・ もっと女性を役員にとかはしなくていいと思う。やりたい人がいて、サポートを必要としているならそれが男性であれ、女性であれサポートするのは当然だと思う。平等と公平を履き違えないようにすべき。

2 男女共同参画社会について

- ・ 今のままでは何も発展されていない。国や日本全体でとりくむことが大事ではないか。変えていけるようにしてほしいです。若者の力をかりて未来につなげてほしい。
- ・ 男性・女性どちらも得意ないろいろ分野があり、つまりは、その人各々のできること、やりたいことを協力していけるといいと思う。
- ・ 私の時代（姑）母親に子どもをあずけて、仕事に行き続けて長く勤めもできた。でも今の人、母親に子どもをあずけることをしない。自分で子どもの世話、教育熱心。中学卒業まで自宅の生活。世間を知らずいる女性が多い。子どもを預ける場所が必要と思う。長い時間子どもを安心して預ける場所を作ることを共同参画で考えてくださいませ。（世の中に出て働くことが女の成長と私は思います。男の人といっしょになって、男女共同参画に参加してほしいです。
- ・ 女性の助けになるサポート・制度（とくに産・育児に関すること）をぜひ作ってください。
- ・ 従来の慣習や男性を優先させた組織や制度を改める。女性の特性を生かし参画計画を作成する。人材育成（女性）。
- ・ 何かにつけて女性は守られていると感じています。男女共同参画とは一方で女性に、ある責務を押し付けるようなもののようにも感じ、推進の意義が今ひとつ納得できません。
- ・ 人それぞれ性格、考え方が違うので（高齢者はむずかしい）中々行動に移すことは大変かと思います。これからの若い人たちが推進して、子ども達にうけついでいけたらいいかと思います。
- ・ 男女平等が男女共同参画推進の軸となっているので町、市民が意思を表明できる場を作れたらと思います。

- ・ 男性が参画することも女性が参画することも賛成であるが、どちらも推進することではなく自身が自由に参画する意識を持つことが大事であり、それを推進でなく応援できる体制が整うことが必要なのではないのでしょうか。
- ・ “男女共同参画”という言葉でさえ考え方が固定されているように思う。男女という方向だけでなく、老若、障害者も含め、世の中に存在するあらゆる人々が参画できる社会へと進めるよう意識したい。
- ・ 自らの組織が不平等、不均衡で外部に協働や共同を求めても無理があるような気がする。ほんとうに役場にしても行政が関わる組織が参画に、少なくとも他の組織より協働、共同が目に見えて現実、実現化されているのならその姿を町の SNS に up するなどして PR するのも一つの方法かと思う。
- ・ 役場のアンケートでお答えするのは心苦しいのですが、行政がなるべく介入するべきではないと考えます。(保育士や介護士に対する環境改善や支援は強化するべきだと思いますが)。男女共同参画＝良い社会には根本的に疑問に思います。

3 性の多様性について

- ・ いま、やたら女性に気をくばるのは悪い事ではないけど基本的男、女あまり気を使わず能力のある人（男、女）あまり意識しないのがいい。その人の実績また能力をみんなでみとめ協力する社会を造る事が男女差別のない小さな事に気がつかいすぎるのは住みにくい社会になると思う。いろんな人がいる社会がこれからの時代だと思う。男も女もない。
- ・ 社会は、男と女という性別に対して必要以上に拘泥すべきではなく、個人の自由意思を認識すべきだ。
- ・ L G B Tなどの理解推進が必要だと思うが、それを逆手に取った犯罪が怒らない対応は本当に切に願う。私個人としては教育分野などでも、あまり周りに押し付けるようなL G B T関連の話は理解できる部分もあるが、理解できない部分も多い。度々話題に上がるが、男女共同トイレなど入浴施設のL G B T推進案など相当理解しがたい。何でも平等にすればいいと言うものではなく、性に関する部分はあくまで男と女ではっきり分けるべき。急いで何でもかんでも平等にしようと言う動きは非常に危険なので、絶対にそんな判断はしないでください。

4 女性の社会進出について

- ・ 女性の国会議員を、もっと増やす。
- ・ 女性としての管理職を、と2人目育休明けに役職につきましたが、結局、国からほめられる（会社の何%女性の管理職がいると合格等）ので実行しているとしか思えませんでした。私が体調を崩し入院後、改善策を、と相談しても何も改善されませんでした。相談した上司は男性。まだまだ昭和的な考えの会社が多いと思うので、一人ひとりが少しずつ意識を変えていくしかないと思います。
- ・ 女性の賃金の見直し。
- ・ 女性の管理職としての能力が発揮できるチャンスが少なく大手企業ももっと登用すべきだと思います、（ちなみに昔の話ですが以前勤めていた大手企業の会社は、女性管理職は0人でした）。

5 ワーク・ライフ・バランスについて

- ・ 未就学児のいる子育て世帯は男女ともに時短勤務を可能にしてほしい。子どもの送迎や病気などで休みを取りやすい環境になってほしい。

6 地域活動について

- ・ 地域住民の意識を変えるような対策をお願いします。
- ・ 地域役員の年間行事が多すぎるので行事内容の見直しを図らなければ参画の推進はないと思います。現状の年間行事を見れば特に女性が手を上げるとは思えない。
- ・ 役員の女性を増やすことの目的が分かりにくいと感じました。
- ・ 役員になると、時間の制約が増えると同時に責任がついてくる。責任ある役を、女性や若者がやってくれる事は望みうすである。
- ・ 吉田町は、お年寄りが多く、お年寄り＝男性が自治会活動を行う、仕事も男が行うものという考えの方が多いので、女性の参画は難しいと思う。若い世代が、もっと地域の役員になっていけば、変わっていくと思う。

7 防災・災害復興対策について

- ・ 防災関係で女性の視点を入れるのは大切だと思いますが、女性を増やす（比率を上げる）ことの目的が明確でなければ、登用において性別を意識する必要はないと考えます。
- ・ 大規模災害が起きた場合、吉田町は避難する場所がない。町がなくなってからでは遅い。

8 アンケートについて

- ・ 今回のアンケートは、私に向いていない為よく分からない。
- ・ このアンケート難しかったです。
- ・ 今回のアンケートは無作為に行なわれたようですね。私のような高齢者には的適切な設問とは言えないように感じました。適切な年齢を選びませんと紙面の無駄のように思います。高齢者向けと若者向けの設問にして下さい。私が若かったらと考え解答致しました。当年 82 才の私には設問に解答出来ない事柄が多過ぎました。
- ・ こういうアンケートをしてもあまり意味ないように思う。男女共同参画といっても、田舎はやっぱり古き考えの方がリーダーシップをとるので。その前にアンケート回答が強制されるなんてあっていいのですか。それなら、「500 円」のクオカード位渡すなりしてもいいのでは無いでしょうか。もっと考える事があると思います。
- ・ 問 28 以降の意見は、高齢であるため解答が難しいです。

9 その他

- ・ 私が中学生の時、(第3田吉中卒業生)では生徒会長が女性に。野球の応援も、女性中心でした。まずかったとは思っていません。当時は当然のこととして受け入れていました。
- ・ 大人になってから、一般常識や学生時代には学ばなかったことを、もう一度夜間等の学校へ行って学ぶ機会を与えてはどうかと思います。リスキリングの一環として地域における研修会を毎年催し、受講履歴が、仕事や出会いの機会に行かされる社会制度が確立できれば。
- ・ 適当にがんばれ。
- ・ 一番近い方(家族等、職場)に理解と協力を得られる状況を作れる事が必要だと思います。
- ・ 今では後期高齢者、助けてもらうようになってしまい、もう少し前に今のような事があれば協力できたのに残念。

- ・ 老若男女、性別、関係なく暮らしていけるよう、ワクチン無償など取り入れてほしい。物価高くなり、収入は同じでも支出が増え、医療も上がり、20才まで無償など、何かをがまんしなければ、買えない、行けない、払えない。今はそんな生活しにくい状態ではないかと思います。電気、ガスも節約しても追いつきません。お金がかかる、高校生、学生などに手当てを出してほしい。少子高齢化で、これから子ども達のためにも。
- ・ 大変色々参考になりました。私もまだまだ勉強不足でした。男性が全部、仕事+家事+体力的に、女性は口が多いので口と財布と会話は得意。男性は苦勞して最後は死んで行く。95%が男の役目、女性は無理。0.05%ぐらいある。
- ・ 結局本人次第ではないだろうか。
- ・ 男女共同参画の推進という意味がよく分からない。もう少し分かりやすい具体的な、アピールを。みんなが分かりやすい、言葉で。
- ・ 一長一短的にはいかないから、「継続」が大事だと思う。
- ・ 世の中はマジョリティー。意見には建前と本音がある。だから難しいと思う。
- ・ 育児、介護、家事に対する行政の支援サービスが充実し、必要な時に気軽に頼めればいいと思います。
- ・ 政府（政治）面だけ推進しても効果はうすいと思う。家庭・個人・政治（社会）それぞれの視点から推進していく必要があるのだが、一個人としてどのようなことができるのか情報発信をしていただけるとありがたい。第4次吉田町男女共同参画プランの存在を知らなかったの（すみません）定期的に情報発信をしてください。
- ・ 行政はフォーラムや啓蒙活動に注力するよりも、現実に困っている住民を直接サポートすべきだと思う。
- ・ やりたいことはたくさんありますが、生活が困窮しているため、正直それどころではありません。そういう相談も、この狭い町内で知り合いの人がいる役場にはなかなか相談できません。
- ・ 少しずつ変わりつつあるがまだまだ課題が多い。
- ・ とても大切なことではあるが、大変難しいことである。一步一步できるところから実施していくことが肝要だと思う。
- ・ 家庭への支援。企業への支援。学校への支援。

調査票

吉田町
男女共同参画に関する住民意識調査

調査への御協力をお願い

日頃から、町政の運営に御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、本町では、令和3年3月に「第4次吉田町男女共同参画プラン」を策定し、男性も女性もその性別にとらわれないことなく、住民一人ひとりがともにいきいきと暮らせるまちの実現に向けて取り組んでおります。
計画期間を令和3年度から令和6年度としている本計画は、期間終了まで1年を残すところとなり、「第5次吉田町男女共同参画プラン」の策定に向け、今後の施策展開に反映させるための基礎資料を得ることを目的として、町民の皆様様の御意見をお伺いするアンケート調査を実施することといたしました。

なお、アンケート調査の実施にあたっては、吉田町在住の18歳以上の男女の中から無作為に1,000人抽出いたしました。結果につきましては統計的な処理をいたしますので、あなた個人が特定されたり、他の目的に使用されたりすることは決してありません。

大変お忙しい折、恐縮に存じますが、本調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

令和6年7月

吉田町長 田村 典彦

記入上のお願い

- ◆ 御記入は、必ず封書宛名の御本人をお願いいたします。もし御自身で御記入できない場合は、代理の方に御記入いただいても構いません。
- ◆ あなた自身の考え方を、ありのままにお答えください。
- ◆ 回答は、用意された項目の中から当てはまる番号を指示された回答数だけ選んでください。
- ◆ 回答は、次のうちどちらかの方法をお願いします。
 - ① 本用紙へ記入し、郵送による回答
 - ② 右記QRコードを読み込み、オンラインによる回答
(アクセス後、IDを入力してください)



- ID: ●●●●●
- オンラインで御回答いただいた場合は、この調査票を返送していただく必要はありません。
IDは、重複回答を防ぐために設定しており、個人を特定するものではありません。
御記入いただいた調査票は、無記名のまま同封の返信用封筒
(切手不要)に入れて、ポストへ投函してください。
インターネットでの回答がとて便利
◆ この調査の回答期限は7月21日(日)まで です。

この調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

吉田町企画課 企画調整部門
〒421-0395 榛原郡吉田町住吉 87 番地 電話：0548-33-2136

1. あなたのことについて

問1 あなたの性別（性自認）を教えてください。
【性自認】自分の性別をどのように認識しているかを示す概念で「心の性」ともいいます。

1 男	2 女
3 答えたくない	

問2 あなたの令和6年7月1日現在の年齢を教えてください。

1 19歳以下	2 20代
3 30代	4 40代
5 50代	6 60代
7 70代	8 80歳以上

問3 あなたの職業について教えてください。

※産前産後休業、育児休業中の人は働いているものとみなします。

1 正規の従業員・職員	2 非正規の従業員・職員
3 自営業	4 農林漁業従事者
5 専業主婦・主夫	6 学生
7 無職	8 その他（ ）

問4 あなたは現在結婚（事実婚・パートナーを含む）していますか。

1 未婚	2 既婚（事実婚・パートナーを含む）
3 離別・死別	

問5 問4で「2 既婚（事実婚・パートナーを含む）」と回答した方にお伺いします。共働きですか。

1 共働きである	2 どちらか一人だけ働いている
3 二人とも働いていない	

問6 あなたの世帯構成を教えてください。

1 ひとり暮らし	2 夫婦のみ（事実婚・パートナーを含む）
3 二世帯家族（両親と子が同居）	4 三世帯家族（親・子・孫が同居）
5 ひとり親家族（母子または父子が同居）	6 その他（ ）

2. 男女平等に対する意識について

問7 あなたは、次の分野で男女が平等であると思いますか。(それぞれ○は1つ)

	非男性の方が負担されている	男性の方が負担されている	平等	女性の方が負担されている	わからない
① 家庭生活	1	2	3	4	5
② 職場	1	2	3	4	5
③ 学校教育の場	1	2	3	4	5
④ 地域活動の場 (自治会・自主防災会・PTAなど)	1	2	3	4	5
⑤ 政治の場	1	2	3	4	5
⑥ 法律や制度の上	1	2	3	4	5
⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
⑧ 社会全体として	1	2	3	4	5

問8 あなたは、「男性は外で働き、女性は家で家事・育児をする」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(○は1つ)

1 賛成	2 どちらかといえば賛成
3 どちらかといえば反対	4 反対

問9 家事分担について、あなたの「希望」に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

1 ほとんど男性が行う	2 男性が中心となって行い、女性も手伝う
3 半分ずつ分担して行う	4 女性が中心となって行い、男性も手伝う
5 ほとんど女性が行う	6 性別に関係なく、時間がある方が行う
7 その他 ()	

問10 家事分担について、あなたの家庭の「現実 (現状)」に最も近いものはどれですか。ひとり暮らしの方は、8に○をつけてください。(○は1つ)

1 ほとんど男性が行っている	2 男性が中心となって行い、女性も手伝っている
3 半分ずつ分担して行っている	4 女性が中心となって行い、男性も手伝っている
5 ほとんど女性が行っている	6 性別に関係なく、時間がある方が行っている
7 その他 ()	8 ひとり暮らしのため、家事は自分で行っている

現在、配偶者 (事実上の配偶者、パートナー) のいる方にお伺いします。

問11 あなたの家庭では、次にあげる役割を、主にどなたが分担していますか。(それぞれ○は1つ)

	妻	夫主にも負担が、	夫と妻が同程度	妻も主にも負担が、	夫	その他の者	親同居の子どもら
①家計を支える (生活費を稼ぐ)	1	2	3	4	5	6	
②掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする	1	2	3	4	5	6	
③ゴミ出しなどの簡単な家事をする	1	2	3	4	5	6	
④日々の家計の管理をする	1	2	3	4	5	6	
⑤育児、子どものしつけをする ^(※)	1	2	3	4	5	6	7
⑥親の世話 (介護) をする ^(※)	1	2	3	4	5	6	7
⑦自治会・町内会などの地域活動を行う	1	2	3	4	5	6	
⑧子どもの教育方針や進路目標を決める ^(※)	1	2	3	4	5	6	7
⑨高額の商品や土地・家屋の購入を決める	1	2	3	4	5	6	

※質問の対象となる子どもや親がいない場合には、7に○をつけてください。

3. 男女共同参画社会について

問12 あなたは、「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○はいくつでも)

1 法律や制度の面で見直しを行う	2 国・地方公共団体の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
3 地域の役員 (自治会・区会) に女性の参画が進むよう支援する	4 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
5 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する	6 従来、女性が少なかった分野 (研究者等) への女性の進出を支援する
7 従来、男性があまり担ってこなかった家庭での家事・育児・介護等への男性の分担を推進する	8 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設・介護サービスを充実する
9 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する	10 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
11 子育てや介護等であっても仕事を続けられるよう支援する	12 子育てや介護等で、一旦仕事を辞めた人の再就職を支援する
13 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRする	14 非正規雇用の女性や母子家庭の母親など、経済的に弱い立場の女性への支援を強化する
15 その他 ()	

問13 男女共同参画社会の実現のために、あなた自身が出来ることは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

1	男女が互いに対等な存在として尊重する意識を持つ
2	性別に関する偏見や先入観を持たないように心掛ける
3	家事・育児・介護等、男性があまり担っていないことに心掛ける
4	組織の役割やリーダー等、女性があまり担っていないことに心掛ける
5	家族・職場・地域等で男女共同参画について話してみる
6	男女共同参画に関する制度や社会状況の勉強をする
7	男女共同参画推進を目的とした事業や住民活動に参加・支援する
8	その他 ()

問14 あなたは、学校における人権の尊重、男女平等を推進する教育を進める上で、何が最も大切であると思えますか。(〇は1つ)

1	男女共同参画に関する教職員等の研修の充実
2	授業、学校行事など男女に偏りのない学校運営の充実
3	性別にとらわれず多様な選択を可能にする進路指導の充実
4	その他 ()

4. 性の多様性について

問15 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを教えてください。

(〇はいくつでも)
※選択肢「5. 性自認」については、本アンケートの問1に説明文が記載されていますが、本アンケート回答以前に聞いたことがある場合のみ、〇をお願いします。

1	LGBTQ	2	セクシュアル・マイノリティ(性的マイノリティ)
3	SOGI	4	性的指向
5	性自認	6	アウティング
7	パートナーシップ制度	8	レインボーフラッグ
9	見たり聞いたりしたものはない		

問16 性の多様性への理解を促進するために、あなたが行政に求める施策は何ですか。

(〇はいくつでも)

1	パートナーシップ制度(性的マイノリティの人のパートナー関係を公的に証明する制度)の導入		
2	相談窓口の設置	3	学校における教育活動
4	講演会の開催	5	チラシや広報誌による啓発活動
6	企業向けセミナーの開催	7	当事者同士が交流できるイベントの開催
8	その他 ()		

5. 女性の社会進出について

問17 現状では、意思決定を行う管理部門や指導的地位への女性登用が未だ少ない状況にあります。あなたはその理由としてどのようなものがあると思えますか。(〇は3つまで)

1	女性自身が管理部門等につくことに消極的だから
2	女性は継続して勤務することが困難であるから
3	社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから
4	家族の理解や協力が得られにくいから
5	主として補助的業務が与えられ、女性の能力を高める機会が少ないから
6	登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから
7	その他 ()

問18 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。(〇は1つ)

1	女性は職業を持たない方がよい
2	結婚するまでは職業を持つ方がよい
3	子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
4	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
5	子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
6	その他 ()

問19 あなたは、女性が働く上での障害は何だと思えますか。(〇はいくつでも)

1	結婚・出産退職等の慣行	2	賃金の男女の格差
3	昇進、昇格における男女の格差	4	仕事内容における男女の格差
5	長時間労働や残業	6	就労先が少ないこと
7	パートタイムや臨時雇いが多いこと	8	育児休業・介護休業の制度が整っていないこと
9	育児休暇が取得しにくいこと	10	育児休業の不足
11	介護休暇が取得しにくいこと	12	介護施設の不足
13	職場でのセクシュアル・ハラスメント	14	職場でのマタニティ・ハラスメント
15	職場における人間関係	16	家族の反対や協力が得られないこと
17	女性雇用への行政による支援の不足	18	女性自身の就業意欲が低いこと
19	女性自身の知識や技術の不足		
20	その他 ()		

問20 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において、どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
2	介護支援サービスの充実
3	家事・育児支援サービスの充実
4	男性の家事参加への理解・意識改革
5	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
6	働き続けることへの女性自身の意識改革
7	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
8	職場における育児・介護との両立支援制度の充実
9	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
10	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
11	その他 ()

問21 女性の社会参画をさらに進めるためには、女性が活躍するための支援が重要です。あなたは、女性の社会参画のために、即政としてどのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1	役場や子育て支援センター、カウんセラーなどによる相談の充実
2	起業や就職、社会貢献等の情報の提供
3	生涯学習などの各種学習機会を提供
4	企業等への女性参画についての意識啓発
5	講演会や交流会等の情報交換の場の提供
6	参考となる事例の紹介
7	育児・介護の支援
8	経済的基盤が脆弱な家庭の支援
9	男女共同参画に係る情報発信の強化や相談体制の整備
10	女性の雇用の継続、安定化のための支援
11	その他 ()

6. 男性の家事・育児などへの参加について

問22 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。(〇はいくつでも)

1	子どもに良い影響を与える
2	男性も家事・育児を行うことは、当然である
3	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる
4	男性自身も充実感が得られる
5	男性自身も人間的に成長する
6	仕事と両立させることは、現実として難しい
7	家事・育児は女性の方が向いている
8	妻が家事・育児をしていないと誤解される
9	男性は、家事・育児を行うべきではない
10	周囲から冷たい目で見られる
11	その他 ()

問23 あなたは、男性の「地域活動」や「家事・育児・介護等の家庭生活における活動」への参画を進めるためには、どのような取組が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすること
2	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすること
3	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
4	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
5	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
6	労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つようにすること
7	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
8	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
9	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること
10	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
11	家庭で参画の必要性を教えること
12	学校で参画の必要性を教えること
13	仕事と家庭の両立を社会が支援する体制の整備を図ること
14	その他 ()

7. ワーク・ライフ・バランスについて

問24 生活の中の、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い)の優先度について、あなたの「希望」に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

1	「仕事」を優先したい
2	「家庭生活」を優先したい
3	「地域・個人の生活」を優先したい
4	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8	その他 ()

問25 それでは、あなたの「現状」に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

1	「仕事」を優先している
2	「家庭生活」を優先している
3	「地域・個人の生活」を優先している
4	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8	その他 ()

8. あらゆる暴力の根絶と困難な問題を抱える女性への支援について

問26 以下の困難な問題で、あなたがこれまでに、見聞きしたり、経験したりしたことがあるものはありますか。(○はいくつでも)

答えたくない場合は、問 27 にお進みください。

①周囲の人で見聞きました

1 セクシャルハラスメント	2 マタニティハラスメント
3 ドメスティックバイオレンス	4 ストーカー被害
5 経済的な困窮	6 望まない妊娠
7 頼れる人間関係の少なさ	

②自分自身が経験した

1 セクシャルハラスメント	2 マタニティハラスメント
3 ドメスティックバイオレンス	4 ストーカー被害
5 経済的な困窮	6 望まない妊娠
7 頼れる人間関係の少なさ	

問26で○をつけた方にお伺いします。

問26-1 あなたは、お答えいただいた項目を見聞きしたとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。(○はいくつでも)

1 自力で解決に取り組んだ	2 他者へ相談した
3 何もなかった	4 その他 ()

問26-2 あなたは、お答えいただいた項目を経験したとき、あるいはその後、どのような対応をしましたか。(○はいくつでも)

1 自力で解決に取り組んだ	2 他者へ相談した
3 何もなかった	4 その他 ()

問27 困難な問題に関する相談窓口などについて、あなたが知っているものをあげてください。

(○はいくつでも)

1 町の相談窓口 (健康、介護、子育て、生活困窮 等)
2 DV相談ナビ (#8008・はれれば)
3 DV相談プラス
4 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター全国共通番号 (#891・はやくワンストップ)
5 性暴力相談に関するSNS相談 (Cure time・キュアタイム)
6 性犯罪被害相談電話に係る全国共通番号 (#8103・ハートさん)
7 ひきこもり地域支援センター (中部健康福祉センター)
8 女性の権利ホットライン
9 自殺対策相談窓口 (いのちSOS、いのちの電話、こころの電話)
10 ハラスメント悩み相談室 (県民生活センター)
11 警察相談専用電話 (#9110)
12 男女共同参画センター・女性センター (静岡県男女共同参画センター「あざれあ」等)
13 知っているものはい

問28 あなたは、女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などに配慮してほしいと思うことはありますか。(○はいくつでも)

1 メールによる相談ができる
2 チャット、SNSなどによる相談ができる
3 電話による相談ができる
4 通話料が無料
5 24時間相談ができる
6 医療費、カウンセリング費用、弁護士費用などについて、無料で支援が受けられる
7 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる
8 同様の相談員がいる
9 匿名で相談ができる
10 弁護士など、法的知識のある相談員がいる
11 臨床心理士、公認心理師など、心理専門職の相談員がいる
12 DVや性暴力に関する専門の相談員がいる
13 その他 ()

9. 地域活動について

問29 あなたは、自治会の役員に女性が少ない現状について、どのように思いますか。(○は1つ)

1 女性の役員を増やすべき	2 今のままでよい
3 その他 ()	

問30 地域活動において、女性が自治会の役などの役割につくことが少ないのが現状です。あなたは、この主な理由について、どのように思いますか。(○は3つまで)

1 女性自身が長などの役割につくのに消極的だから
2 家族の理解や協力が得られないから
3 社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから
4 女性は男性より体力や運動能力が劣っているから
5 活動時間帯が女性に合っていないから
6 女性は指導的な資質に欠けるから
7 世間一般から快く思われないから
8 女性を役割に増やすための取組が少なすぎるから
9 その他 ()

問31 あなたが現在 (あるいは今後)、地域活動に参加しようとする時、何か障害になるようなことがありますか。(○はいくつでも)

1 仕事で忙しく、時間がない	2 家事・育児が忙しく、時間がない
3 子どもの世話を頼めるところがない	4 親や病人の介護を頼めるところがない
5 自分の健康や体力に自信がない	
6 自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない	8 経済的な余裕がない
7 身近なところに活動する場所がない	10 職場の上司や同僚の理解が得られない
9 家族の理解が得られない	
11 その他 ()	

10. 防災・災害復興対策について

問32 あなたは、防災・災害復興対策において、性別や多様性に配慮した対応が必要だと思いますか。

(○は1つ)

1 必要がある	2 どちらかといえば必要がある
3 どちらかといえば必要ない	4 必要ない

問32で「1」「2」と答えた方にお伺いします。

問32-1 あなたは、防災・災害復興対策において、性別や多様性に配慮した対応が必要なこととは何だと思えますか。(○はいくつでも)

1 避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干し場等）
2 避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること
3 災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）
4 公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮
5 被災者に対する相談体制
6 防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること
7 災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること
8 災害復旧・復興対策計画に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること
9 その他（ ）

問33 災害時における避難所運営に女性が参画していない、平常時の防災や震災対応に女性の視点がない等の問題が指摘されています。あなたは、災害に備えるために、これからどのような取組が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 町の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす
2 地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする
3 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
4 備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる
5 女性の意見や視点を取り入れた避難所運営マニュアルを作成する
6 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
7 日ごろからのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
8 日ごろからの男女平等、男女共同参画意識を高める
9 その他（ ）

問34 大規模災害が発生した場合、避難所生活を強いられる可能性があります。仮に避難所生活になった場合、あなたは、避難所の運営等に何らかの形で関わりたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 避難所運営の中心的役割として関わりたい
2 避難所を運営している自治会長などのサポート（手伝い役）として関わりたい
3 炊き出しなど避難所の仕事を手伝いたい
4 避難所運営は他の住民に任せたい、避難所運営に自分自身が関わるのは難しい
5 その他（ ）

問35 地域の役員（例：自治会、町内会、交通指導員 等）について、どうしたら女性が登用されるようになると思いますか。御自由に御記入ください。

問36 男女共同参画の推進に当たり、御意見がありましたら、御自由に御記入ください。

アンケートに御協力いただき、ありがとうございます。
御記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、
7月21日（日）までにポストに御投函ください。

※回答用紙や封筒に、氏名を御記入いただく必要はありません。

吉田町

男女共同参画に関する住民意識調査

発 行 年 月：令和6年9月

発 行：吉田町 企画課 企画調整部門

〒421-0395

静岡県榛原郡吉田町住吉87番地

電 話：0548-33-2136